ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告 72

富山市内遺跡発掘調査概要ⅩⅣ

―砂川カタダ遺跡―

２０１５

富 山 市 教 育 委 員 会

正誤表

ページ	行数	誤	⇒	正
例言	2行	平成17年度	⇒	平成18年度
	6行	平成18年2月26日	⇒	平成19年2月26日
1	22行	平成18年2月26日	⇒	平成19年2月26日
	26行	平成18年3月31日	⇒	平成19年3月31日
	28行	平成17年度	⇒	平成18年度
25	1行	（3）室町時代～江戸時代	⇒	（3）鎌倉時代～江戸時代
26	42行	野島永・野々口陽子	⇒	野島永・野々口陽子1999
報告書抄録	調査期間	20060226 ～ 20060323	⇒	20070226 ～ 20070323

ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告 72

富山市内遺跡発掘調査概要XIV

—砂川カタダ遺跡—

2015

富山市教育委員会

例　　言

1　本書は、個人住宅建築に先立ち平成17年度に実施した砂川カタダ遺跡の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、富山市教育委員会が主体となって実施した。調査費用については富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
3　現地発掘調査・出土品整理調査の期間および調査担当者等は次のとおりである。
　現地発掘調査　平成18年2月26日～3月23日
　　調査担当　富山市教育委員会埋蔵文化財センター　主任学芸員　堀内大介（当時）
　　同　　嘱託　久保浩一郎・高橋大和（当時）
　出土品整理調査　平成26年10月1日～平成27年3月31日
　　担　　当　富山市教育委員会埋蔵文化財センター　主査学芸員　堀内大介
　　同　　嘱託　納屋内高史・宮田康之
4　現地発掘調査に際し、東老田町内会のご協力をいただいた。記して謝意を表します。
5　出土遺物・原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。
6　本書の執筆・編集は、堀内が担当した。

凡　　例

1　本書で用いた座標は世界測地第Ⅶ系に基づき設定したものである。方位は真北、水平基準は海抜である。
2　遺構の標記は、以下のとおりである。
　平地式建物・掘立柱建物：ＳＢ、溝：ＳＤ、竪穴建物：ＳＩ、土坑：ＳＫ、ピット：ＳＰ
3　図中の土器の表現は以下のとおりである。
　須恵器・珠洲　赤彩　煤

目　　次

第Ⅰ章　調査の経過…… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境…… 1
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
第Ⅲ章　調査の概要…… 4
　第１節　調査の方法
　第２節　基本層序
　第３節　遺構
　第４節　遺構
第Ⅳ章　総括…… 24
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録…… 37

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査にいたる経緯

砂川カタダ遺跡は、昭和63年～平成３年の富山市教育委員会が実施した分布調査で確認し、平成５年３月に「砂川カタダ遺跡（市№201284）として『富山市遺跡地図（改訂版）』に登載し、それ以後埋蔵文化財包蔵地となった。遺跡面積は約74,000㎡である。

これまでの発掘調査や工事立会調査の成果は次のとおりである。個人住宅建築に伴う発掘調査では、本報告以外に２回行っている。平成17年度は、本報告調査区の南約200ｍで95㎡の調査を行い、平安時代の溝を確認し、弥生土器、土師器、須恵器、鉄滓などが出土した〔富山市教委2006a〕。平成22年度は、本報告調査区の南側に隣接する144.6㎡で調査を行い、弥生時代後～終末期の溝・土坑、平安時代の土坑などの遺構を確認し、弥生土器、土師器、須恵器などが出土し、当該期の集落が存在することが分かった〔富山市教委2011〕。

平成20～23年にかけて、本遺跡内で公共下水道工事が計画され、工事立会調査を実施した。平成20年１月の調査は、本報告調査区の東側に隣接する道路で行い、弥生時代後期の溝・土坑、平安時代の溝・土坑、室町時代の溝・土坑・掘立柱建物など３時期の遺構を確認し、弥生時代後期～室町時代の集落跡が広がることを確認した〔富山市教委2014〕。

平成18年２月22日、富山市東老田地内において、個人住宅建築について照会があった。建設予定地全域330㎡が埋蔵文化財包蔵地の砂川カタダ遺跡に含まれていたため、同年４月14日に試掘調査を実施した。その結果、平安時代の溝・土坑・ピット等や、須恵器・土師器を検出し、建設予定地全域330㎡に埋蔵文化財の所在を確認した。試掘調査の結果に基づき、工事主体者と建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。掘削工事が遺構面に達することから、住宅建築部分と擁壁部分180㎡について発掘調査を行うこととなった。

発掘作業は、平成18年２月26日から３月22日まで行った。表土掘削は２月26日～27日にバックホウを用いて行った。表土除去完了後の２月27日から人力による包含層掘削及び遺構検出作業を行い、その後遺構掘削作業を開始した。３月22日に空中写真撮影を行い、調査を完了した。３月６日～８日の間は積雪のため、作業を中止した。

出土品整理調査は、現地発掘調査と並行して平成18年３月31日まで遺物の洗浄・注記および接合作業を行った。

平成26年度は、平成17年度に実施した現地発掘調査で出土した約17箱について出土品整理調査で報告書作成を実施した。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

砂川カタダ遺跡は、富山市街地から西約７kmに位置し、富山市東老田地内に所在する。遺跡の所在する東老田地内は、射水平野の低地帯で新堀川支流砂川右岸の微高地に立地し、標高６ｍを測る。

射水平野は、潟埋積平野と呼ばれる低湿な平野で、放生津潟などの潟湖が存在した。これらの潟湖は、最終氷期が過ぎた後に海面が上昇し、それに合わせて汀線付近に発達した砂州や砂丘により汀線が塞がれてできたものである。約6,000年前の縄文海進時には、海が内陸部の海抜５ｍまで侵入し、潟湖は湾に変わった。その後海退に伴い、湾は潟湖に変わり、潟湖にはだんだんと泥層が埋積し、射水平野が形成された。その際、河川の流路跡や低地には池沼が形成され、そこに泥炭が堆積した〔藤井1992〕。

第２節　歴史的環境

本遺跡が立地する射水平野・呉羽丘陵西麓周辺には、旧石器時代から中世に至るまで各時代の遺跡が存在する。

【旧石器時代】　二番金草遺跡で剥片が出土し〔富山市教委1982〕、古沢Ａ遺跡でナイフ形石器・掻器などが出土した〔富山市教委1982・1983〕。

【縄文時代】　前期に起こった縄文海進により広がったとされる旧放生津潟周辺に立地する針原西遺跡で、前期～後期の河川跡内で５箇所の貝層が確認された〔小杉町教委2004〕。黒河尺目遺跡では中期後葉～後期前葉の粘土採掘坑が多数確認された〔富山県財団事務所2004〕。一方、呉羽丘陵西麓には、前期から晩期まで継続して集落が営まれた古沢遺跡があり、前期と後期の貯蔵穴、中期の袋状ピットなどを検出した〔富山市教委1973・1975・1985・1988〕。晩期には、古沢遺跡近くの古沢Ａ遺跡でも集落が営まれ、掘立柱建物や巨大柱穴群、土坑などを発掘した。

【弥生時代】　前期の遺跡は見つかっていないが、弥生時代中期～古墳時代中期にかけて、鍛冶川流域には、集落遺跡や粘土採掘を行った生産関連遺跡が増加する。弥生時代後期～古墳時代前期の集落遺跡として、砂川カタダ遺跡〔富山市教委2011・2014〕、塚越貝坪遺跡・畑総№15遺跡〔小杉町教委2000〕、針原西遺跡〔射水市教委2007〕がある。粘土採掘坑は、弥生時代中期～後期には塚越Ａ遺跡〔富山県埋文1992〕で、古墳時代前期には黒河・中老田遺跡〔富山県財団事務所2004〕で、古墳時代中期には東老田Ｉ遺跡〔富山市教委2006b〕で見つかり、粘土を求めて転々としていることが伺える。

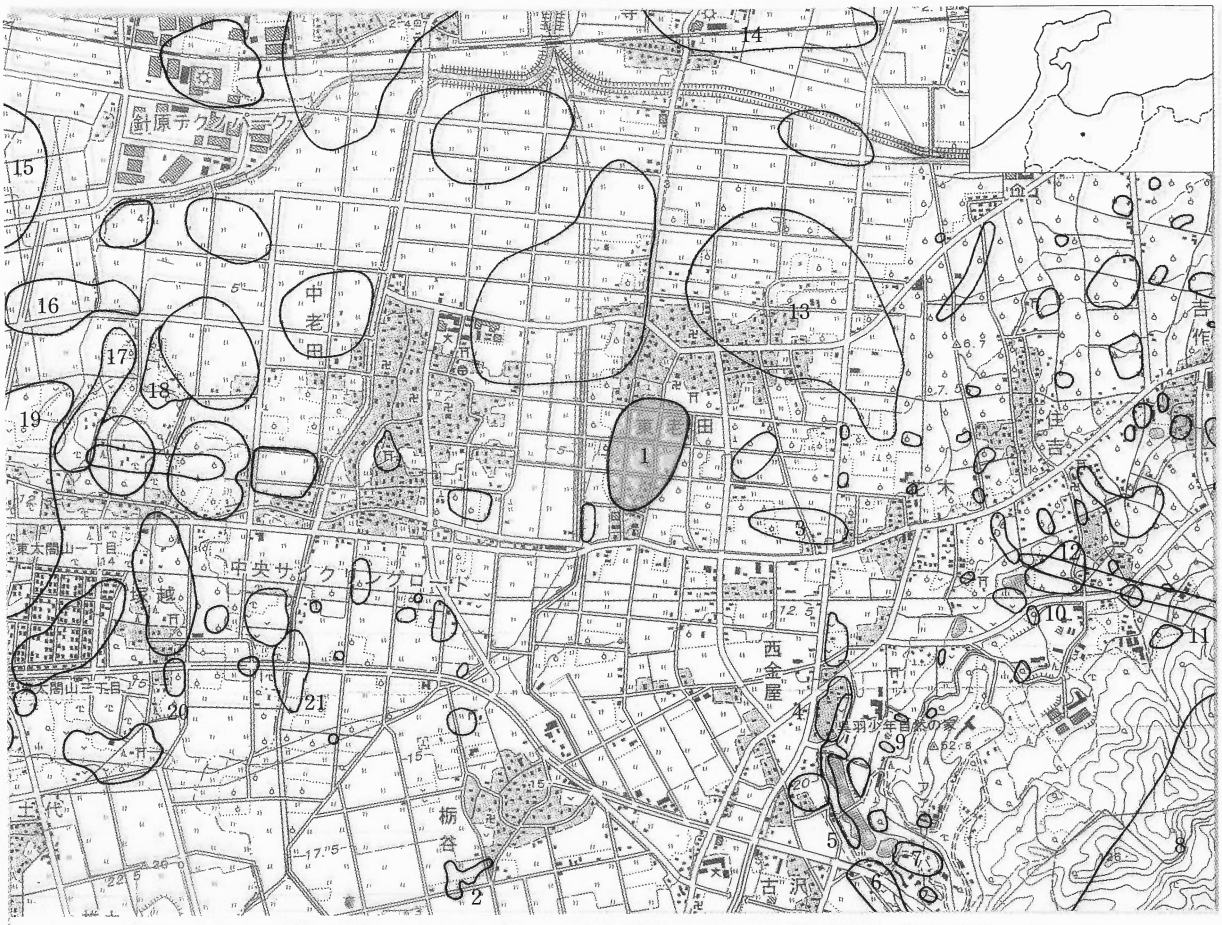
【古墳時代】　弥生時代終末期～古墳時代前期には、呉羽丘陵南部に墓や古墳が集中的に築造された。杉谷古墳群では、山陰地方との関係性の強い四隅突出型墳丘墓である杉谷４号墳、前方後方墳である杉谷１番塚古墳のほか円墳や方墳が築造された〔富山市教委1974〕。杉谷古墳群の北東には、呉羽山丘陵古墳群がある〔富山市教委1984〕。

中期には、古沢Ａ遺跡で集落が営まれ、竪穴建物を数棟確認した〔富山市教委1982〕。

【古代】　飛鳥白鳳～平安時代には、呉羽丘陵から射水丘陵にかけて須恵器窯、瓦窯、土師器焼成遺構、炭窯、製鉄炉などが築かれ一大手工業生産地帯が広がる。須恵器窯は、飛鳥白鳳時代に操業された県史跡金草第一古窯跡〔富山市教委1970〕、奈良時代に操業された古沢・西金屋窯跡群〔富山市教委1988・2000〕などが知られている。土師器焼成遺構は、西金屋遺跡〔富山市教委2012a〕、住吉Ⅳ遺跡（旧：金草電化農場前遺跡）〔富山市教委2012b〕などで確認した。市史跡栃谷南遺跡では、奈良時代の瓦陶兼業窯・灰原・掘立柱建物・粘土採掘坑・井戸跡などを発掘し、粘土採掘から土器・瓦の焼成までの一連の作業を行う生産工房があったことが分かった〔富山市教委1999〕。中老田Ｃ遺跡や畑総№15遺跡では、製鉄炉・炭窯などが発掘された〔富山県教委1992・小杉町教委2000〕

黒河尺目遺跡では、８世紀後半～９世紀前半の竪穴状土坑をはじめ４棟の並び倉などが発掘され、蛋白石製の石帯が出土していること等から〔富山県財団事務所2004〕、婦負郡家に比定されている〔藤田2002〕。花ノ木Ｃ遺跡では、８世紀後半の溝から人形・斎串の祭祀具が出土し、律令祭祀が行われていたことが明らかとなった〔堀沢2008〕。呉羽山を越える直線道路遺構として、呉羽山古道の存在が確認された〔西井・小林2005〕。

【中世】　戦国時代の願海寺城跡がある。上杉謙信方武将寺崎民部左衛門の拠った城として、『上杉家文書』や『越登賀三州志』などに伝わる城である。発掘調査では、二重以上の水堀などを確認し、願海寺城跡の可能性が高いとした〔富山市教委2003〕。周辺では区画溝を持つ屋敷跡などがあり、願海寺城下町の一部と推測した〔富山市教委2005〕。工事立会調査の結果、北郭（約80m×約50m）、南郭（約80m×約120m）の２郭の存在を推定した〔富山市教委2014〕。



1砂川カタダ遺跡　2(市史跡)栃谷南遺跡　3花ノ木C遺跡　4西金屋遺跡　5古沢・西金屋窯跡群　6古沢遺跡　7古沢A遺跡
8呉羽山丘陵古墳群　9二番金草B遺跡　10(県史跡)金草第一古窯跡　11呉羽山古道　12住吉Ⅳ遺跡　13東老田Ⅰ遺跡　14願海寺城跡
15針原西遺跡　16黒川・中老田遺跡　17塚越貝坪遺跡　18畑総№15遺跡　19黒河尺目遺跡　20塚越A遺跡　21中老田C遺跡

第1図　周辺の遺跡分布図（1／25,000）及び調査区位置図（1／5,000）

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査の方法

調査は、最初に試掘調査の結果を基に重機で表土を除去した。その後人力で剣スコップ・移植ゴテ等を用いて包含層掘削を行った後に、ジョレンを用いて遺構検出作業を行い、遺構掘削作業を行った。

掘削作業と平行して遺構の計測・図化作業を実施した。平面図はトータルステーションによる計測を基本として1/20で作成し、遺物出土状況など必要に応じて1/10の微細図を併せて作成した。写真撮影は必要に応じて随時行い、白黒35㎜、カラー35㎜、白黒６×７版、カラー６×７版の４種類のフィルムに記録した。完掘時には空中写真撮影（上空・斜め４方向）を行い、白黒、カラーの２種類のフィルムで記録した。

調査区は、擁壁が四方に作られることから、それぞれを西区、北区、東区、南区とし、住居部分を中央区とした。

第２節　基本層序

調査区の基本層序は、調査区の壁面を用いて観察を行った。調査区の土層は、大まかに以下の４層に分けることができる。遺構は、ⅢまたはⅣ層上面で検出した。

Ⅰ層：茶褐色土＋黄褐色シルト１㎜大　20％混（表土）

Ⅱ層：黒褐色シルト＋黄褐色シルト３～５㎝大　10％混（遺物包含層）

Ⅲ層：灰褐色シルト＋黄褐色シルト１～３㎝大　5％混（漸移層）

Ⅳ層：黄白色粘質シルト（地山）

第３節　遺構

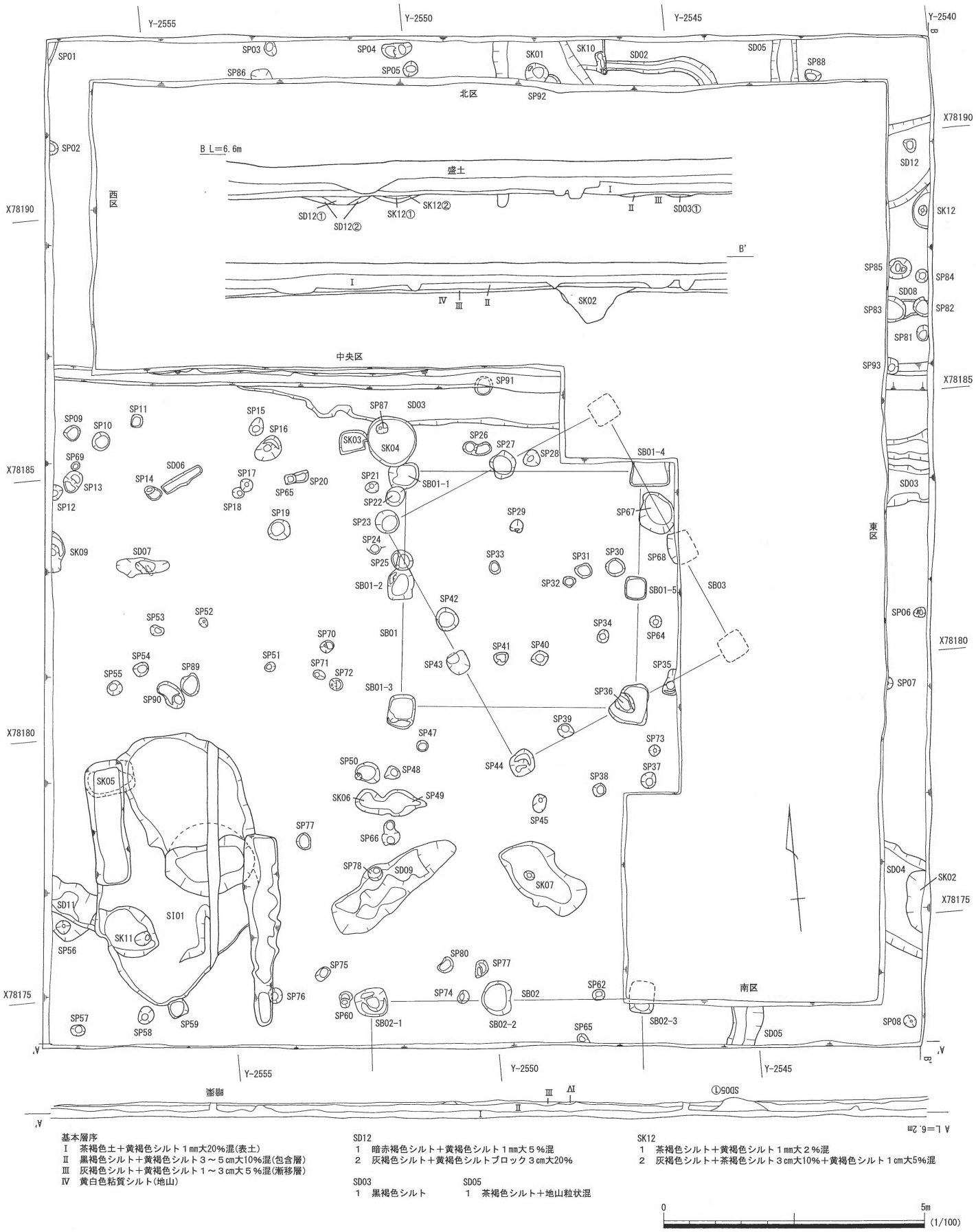
（１）竪穴建物（第３図、写真図版２・３）

SI01　中央区南西部で検出した。平面形は楕円形であり、短軸3.10m、長軸4.20m以上、深さ0.28mを測る。弥生土器・緑色凝灰岩製管玉未製品が出土したが、ほとんどの遺物は床面から浮いた状態で出土しており、竪穴建物廃絶後に廃棄されたものがほとんどである。SK05・SK11より新しい。竪穴建物の埋没後に３回にわたり時期の異なる土坑が掘削されている。土坑１は竪穴建物の北東部に掘削される。平面形は楕円形で、短軸2.2m、長軸3.0m以上、深さ0.36mを測る。土坑２は土坑１埋没後に竪穴建物の東部中央に掘削される。平面形は楕円形で、短軸1.36m、長軸1.76m以上、深さ0.56mを測る。土坑３は土坑２埋没後に土坑２内に掘削される。平面形は不明で、検出長1.08m、深さ0.30mを測る。土坑２から土師器甕のほぼ完形品（37・38）が出土しており、土坑２は平安時代の遺構と考える。

（２）平地式建物・掘立柱建物（第４～６図、写真図版４・５）

SB01　中央区北東部で検出した。桁行2間・梁行１間の南北棟で、側柱建物である。間尺は、桁行SB01-1～SB01-２間が2.2m、SB01-2～SB01-３間が2.4mで、梁行SB01-1～SB01-４間が4.6mを測る。主軸方向はN－7°－Eである。梁行が4.6mと長く、平地式建物と考えられ、平面積は21.2㎡である。SB03・SK04より古い。弥生土器が出土した。

SB02　中央区南東部で検出した。本調査区では梁行の北側のみを検出し、建物の南側は平成22年度に見つかっている。桁行３間・梁行２間の南北棟で、側柱建物である。間尺は、桁行SB02-1～H22-SK12間が2.45m、H22-SK12～H22-SK46間が2.4m、H22-SK46～H22-SK20間が2.45mで、梁行の北側SB02-1～SB02-２間が2.4m、SB02-2～SB02-３間が2.6m、南側H22-SK20～H22-SK23間が4.9mを測るが、南側で北側のSB02-2に対応する柱は確認されていない。主軸方向はN－6°



基本層序
Ⅰ　茶褐色土＋黄褐色シルト１mm大20%混(表土)
Ⅱ　黒褐色シルト＋黄褐色シルト３～５cm大10%混(包含層)
Ⅲ　灰褐色シルト＋黄褐色シルト１～３cm大５%混(漸移層)
Ⅳ　黄白色粘質シルト(地山)

SD12
1　暗赤褐色シルト＋黄褐色シルト１mm大５%混
2　灰褐色シルト＋黄褐色シルトブロック３cm大20%

SD03
1　黒褐色シルト

SD05
1　茶褐色シルト＋地山粒状混

SK12
1　茶褐色シルト＋黄褐色シルト１mm大２%混
2　灰褐色シルト＋茶褐色シルト３cm大10%＋黄褐色シルト１cm大5%混

0　5m
(1/100)

第２図　調査区全体図

－Ｅである。桁行が4.9～5.0ｍと長く、平地式建物と考えられ、平面積は35.8㎡である。弥生土器が出土した。

SB03　中央区北東部で検出した。桁行２間・梁行２間の側柱建物である。間尺は、桁行SP23～SP27間で2.3ｍ、梁行SP23～SP43間で3.0ｍ、SP43～SP44間で2.3ｍを測る。桁行のSP43～SP68間は4.7ｍを測る。主軸方向はＮ－22°－Ｗである。平面積は24.7㎡である。SB01より新しい。弥生土器、須恵器、土師器が出土した。

（３）土坑（第２・３・６図、写真図版３・６）

SK01　北区中央部で検出した。平面形は不明で、長軸1.90ｍ、短軸0.70ｍ以上、深さ0.18ｍを測る。弥生土器、須恵器、土師器が出土した。SK10より新しい。

SK10　北区中央部で検出した。平面形は隅丸方形であり、長軸0.70ｍ以上、短軸0.50ｍ以上、深さ0.14ｍを測る。SK01より古くSD02より新しい。弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓が出土した。

SK02　東区南部で検出した。平面形は楕円形であり、長軸1.18ｍ、短軸0.33ｍ以上、深さ0.48ｍを測る。SD04より古い。

SK12　東区北部で検出した。平面形は楕円形であり、長軸0.84ｍ、短軸0.32ｍ、深さ0.33ｍを測る。土師器が出土した。

SK04　中央区北部中央で検出した。平面形は円形であり、直径1.00ｍ、深さ0.06ｍを測る。床面直上に炭化物層を確認したが、床面に被熱痕跡は見受けられなかった。弥生土器、須恵器、焼土塊が出土した。SB01・SK03・SD03より新しい。

SK07　中央区南東部で検出した。平面形は不整形であり、長軸1.87ｍ、短軸0.95ｍ、深さ0.16ｍを測る。弥生土器が出土した。

SK05　中央区南西部で検出した。平面形は隅丸方形であり、長軸0.94ｍ、短軸0.67ｍ、深さ0.75ｍを測る。弥生土器が出土した。SI01より古い。

SK11　中央区南西部で検出した。平面形は楕円形であり、長軸1.38ｍ、短軸0.93ｍ、深さ0.45ｍを測る。弥生土器が出土した。SI01より古い。

（４）溝（第２・６図、写真図版６）

SD02　北区西部で検出した。Ｓ字状に曲がり、検出長2.40ｍ、幅0.29ｍ、深さ0.11ｍを測る。弥生土器、須恵器、土師器が出土した。SK10より古い。

SD03　中央区北部、東区中央で検出した。東西方向に直線的に走り、検出長13.40ｍ、幅1.27ｍ、深さ0.12ｍを測る。弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓が出土した。SK04、SP91より古い。

SD04　東区南部で検出した。南東から北西に直線的に走り、検出長0.75ｍ、幅1.71ｍ、深さ0.30ｍを測る。弥生土器が出土した。SK02より新しい。

SD12　東区北部で検出した。南西から北東に直線的に走り、検出長0.85ｍ、幅1.62ｍ、深さ0.15ｍを測る。弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓が出土した。

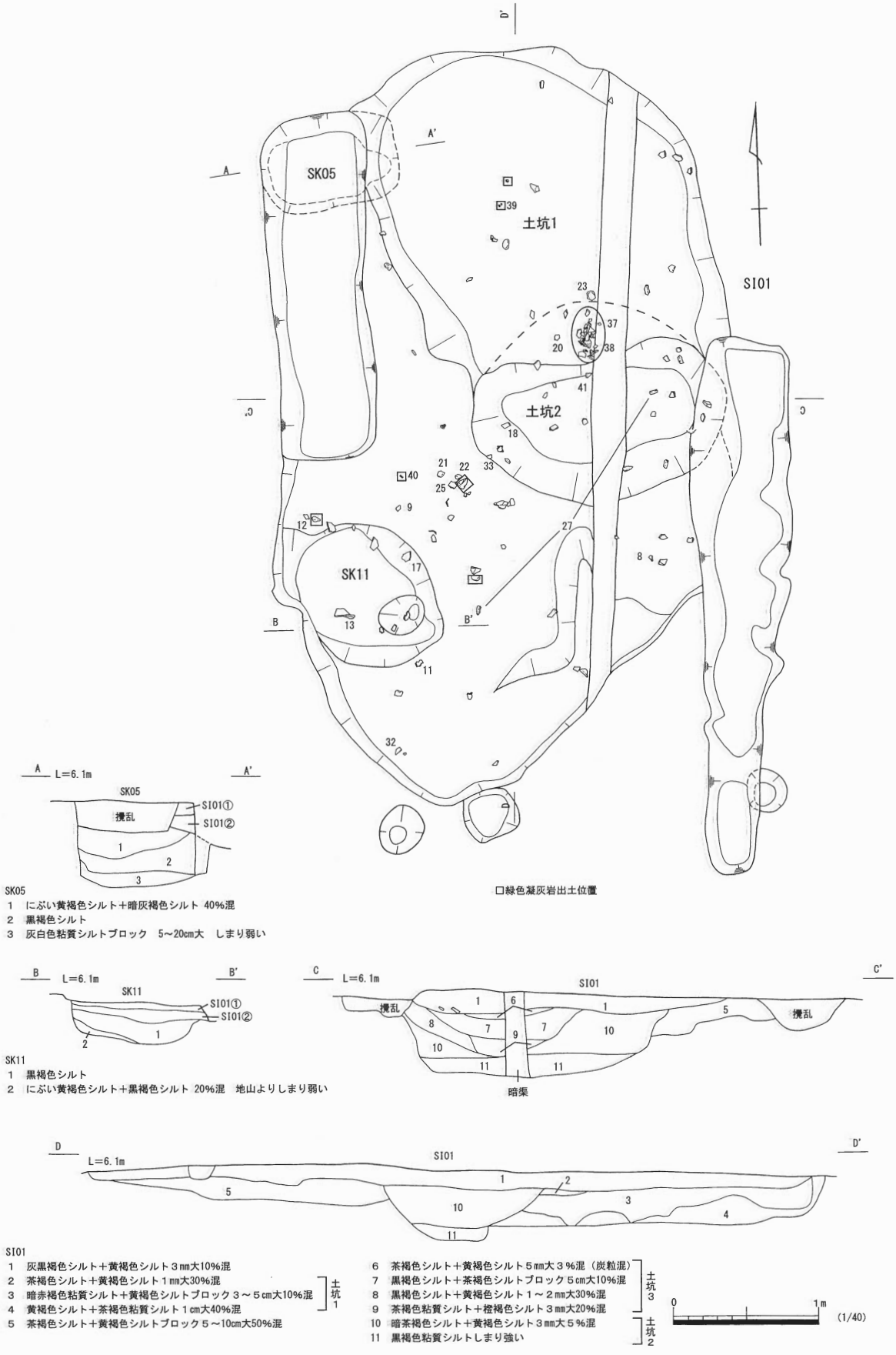
第４節　出土遺物（第７～12図、写真図版７～10）

遺構・包含層から弥生土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、土錘、鉄滓、管玉未製品が出土した。弥生土器は、後期前半の猫橋式である。富山県の猫橋式については、岡本淳一郎氏が県西部を中心に形式分類を行なっており〔岡本2006〕、本報告ではその分類を用いて報告する。

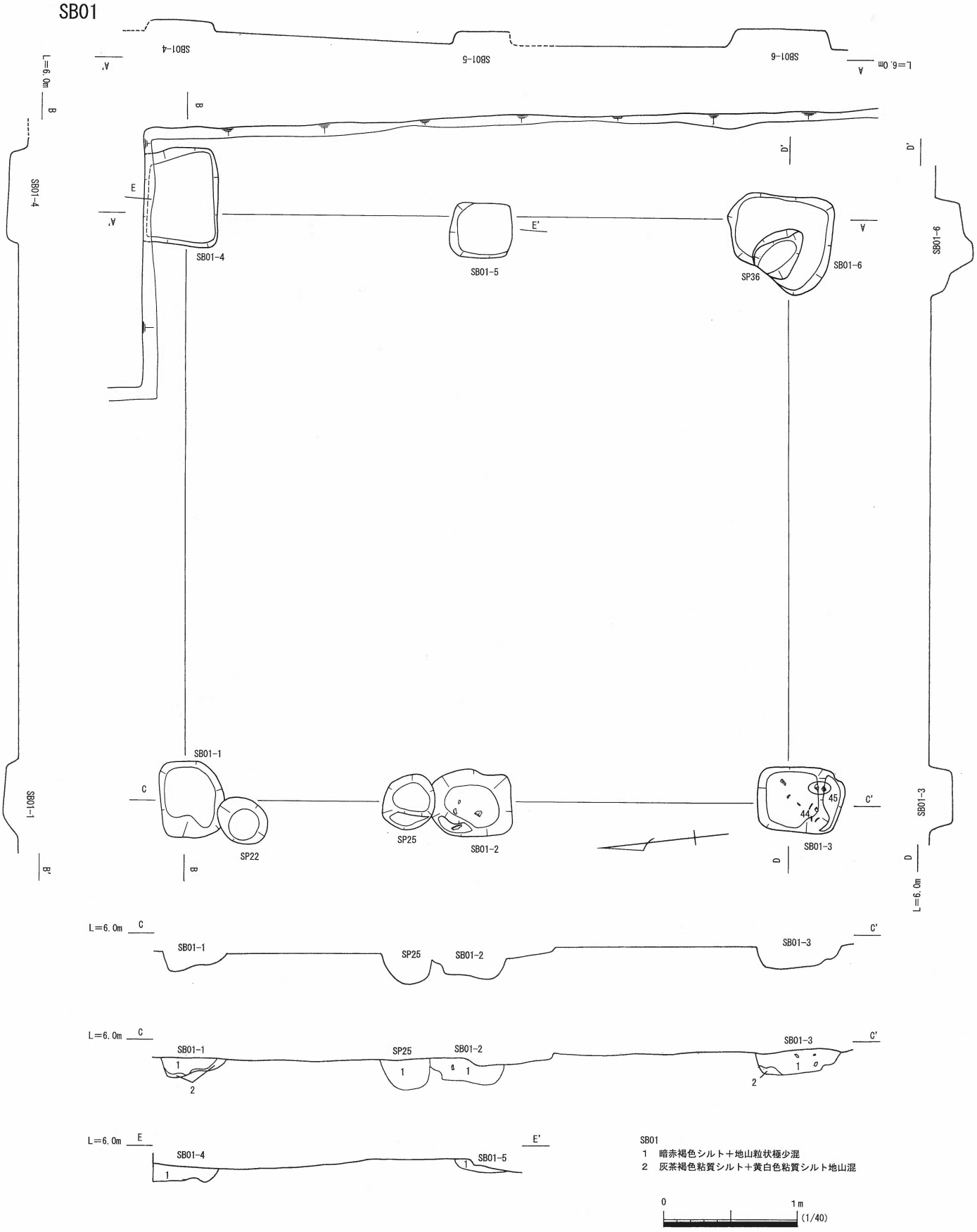
（１）遺構（第７～９図、写真図版７～９）

SI01　１～30は弥生土器である。１～２は擬凹線小型甕である。１は３条の擬凹線、２は２条の

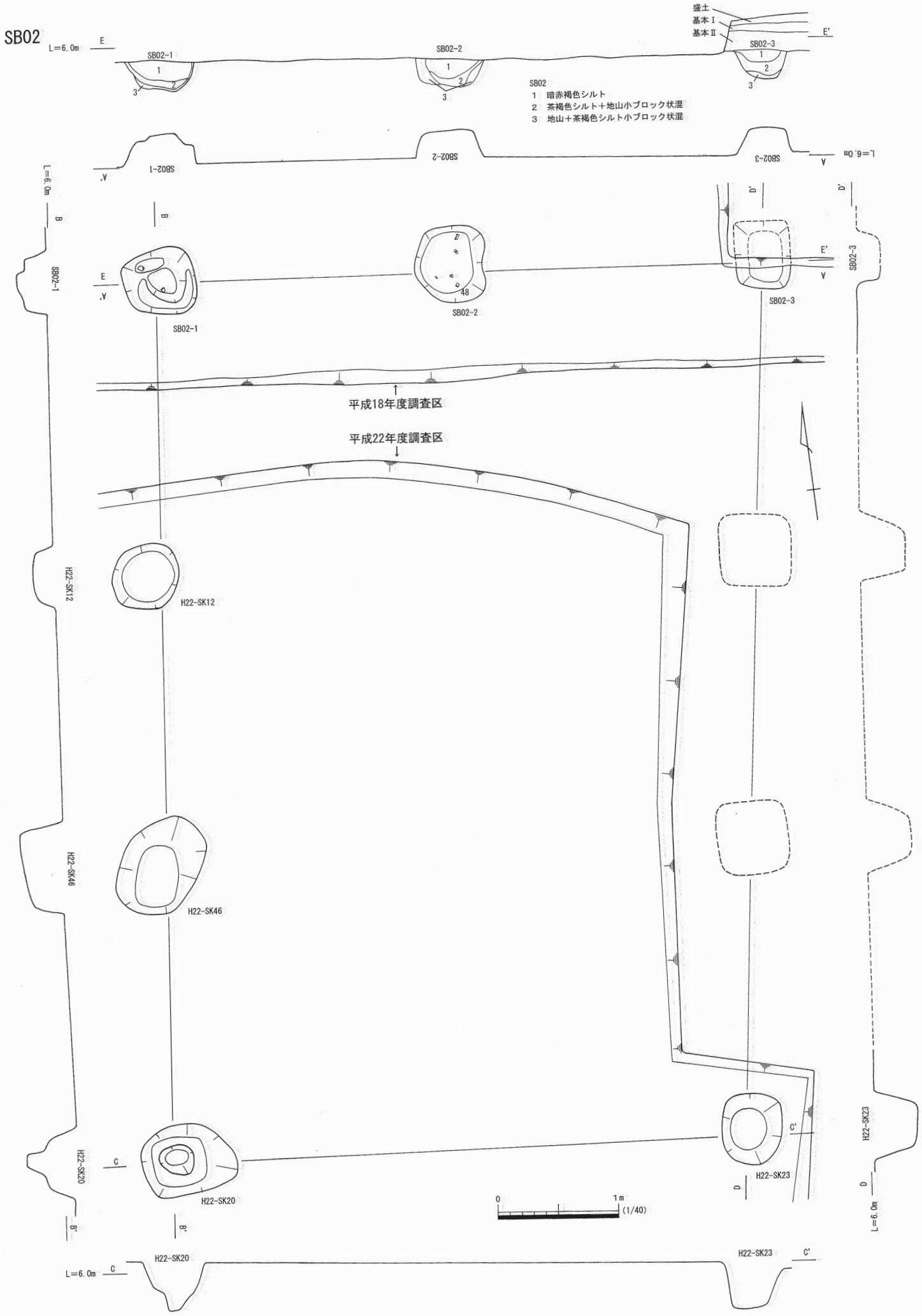
SI01



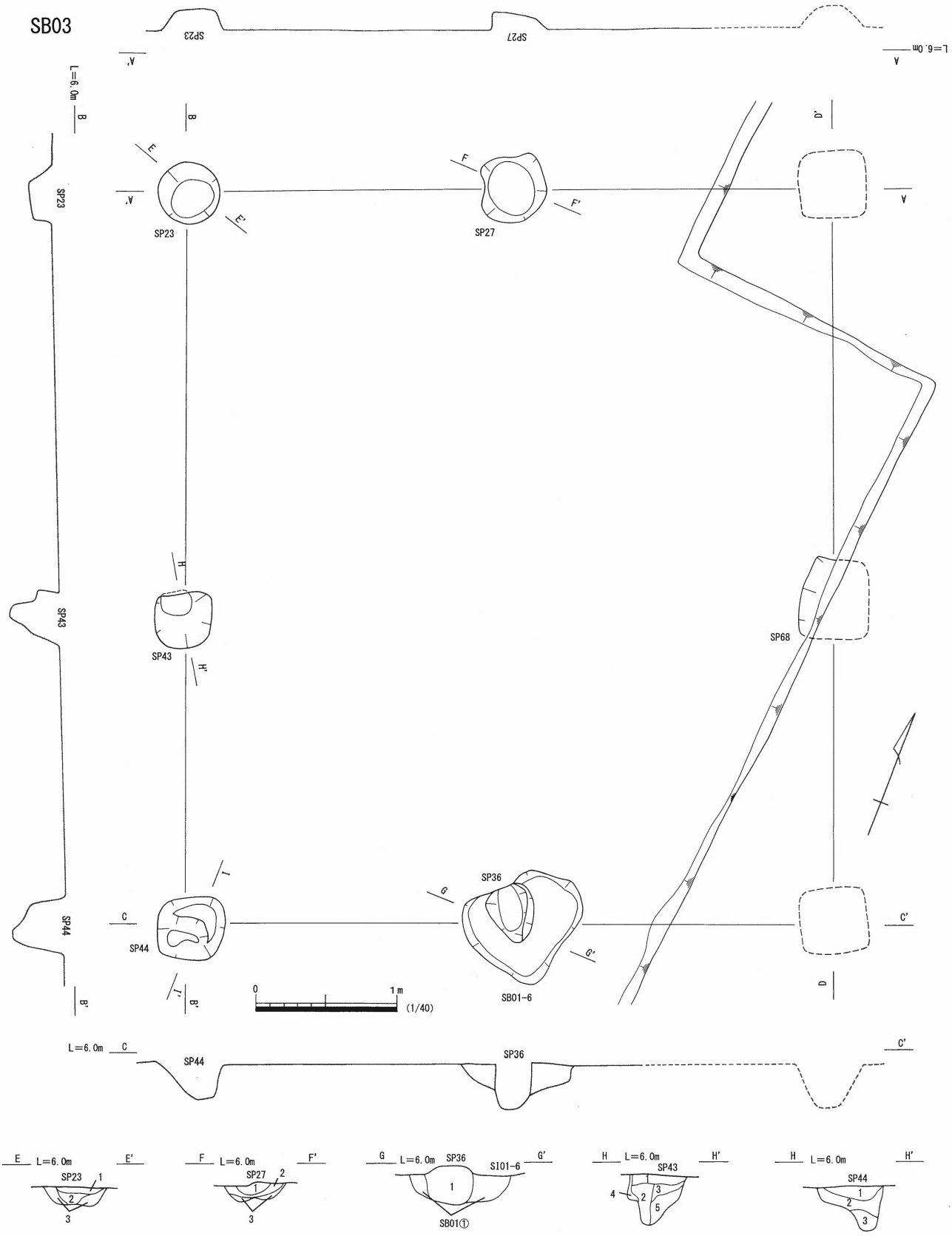
第３図　SI01平面図　※番号は実測図番号



第４図　SB01平面図　※番号は実測図番号



第5図　SB02平面図　※番号は実測図番号



SP23
1　黒褐色シルト
2　黒褐色シルト＋地山ブロック20%混しまり弱い
3　にぶい黄褐色シルト＋黒褐色シルト40%混

SP27
1　暗灰褐色シルト
2　灰褐色シルト＋地山ブロック混
3　黄褐色シルト＋灰褐色シルトブロック混

SP36
1　黄褐色シルト＋地山ブロック混

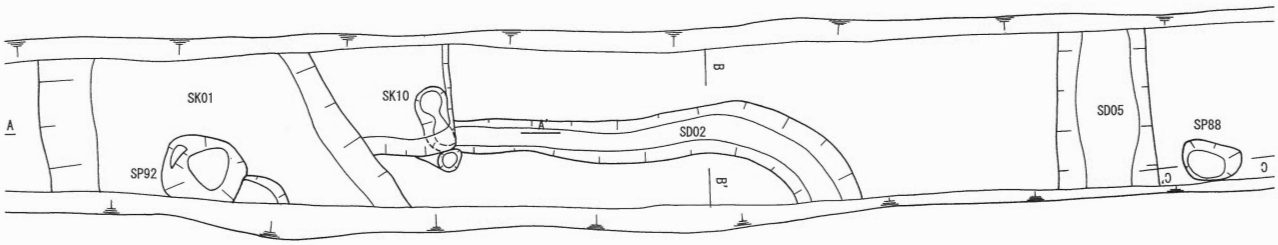
SB01
1　黒褐色シルト＋地山粒状少量混

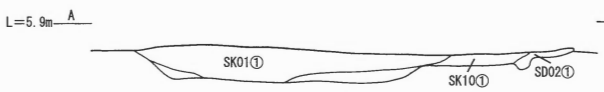
SP43
1　灰褐色シルト＋地山ブロック１～３cm大20%混
2　黒褐色シルトしまり弱い
3　灰褐色シルト＋地山ブロック３～５cm大40%混
4　灰褐色シルトしまり弱い
5　にぶい黄褐色シルトしまり弱い

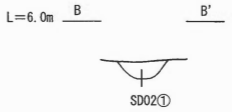
SP44
1　黒褐色シルト
2　灰褐色シルト＋地山ブロック５～10cm大40%混
3　にぶい黄灰色シルト

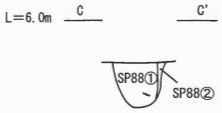
第６図　SB03平面図

SK01・SK10・SD02







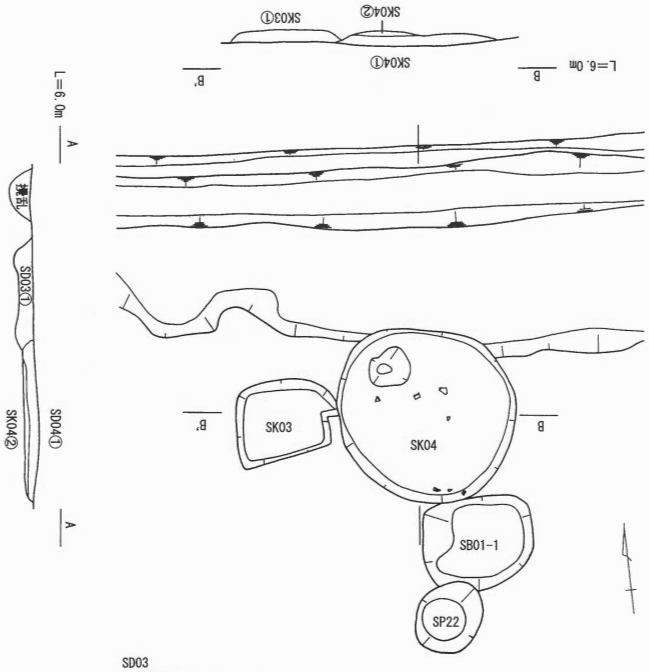


SK01
1　暗灰褐色シルト＋黄褐色シルトブロック１～２cm大10%混
2　灰褐色シルト＋黄褐色シルトブロック３～５cm大30%混
SK10
1　暗灰褐色シルト＋黄褐色シルトブロック20%混

SD02
1　暗灰褐色シルト＋黄褐色シルトブロック２～３cm大20%混

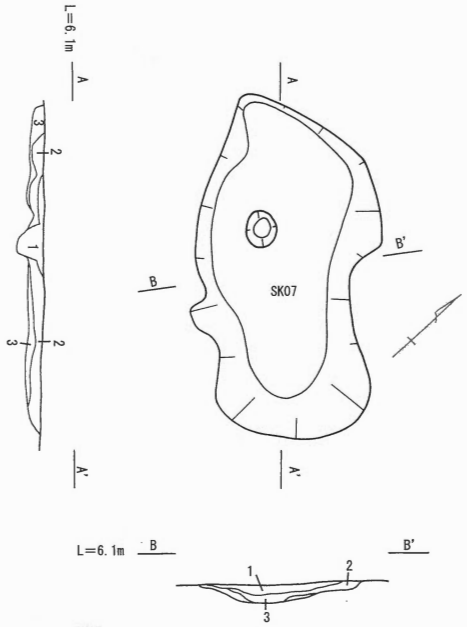
SP88
1　黒褐色シルト
2　にぶい黄褐色シルト＋灰褐色シルト20%混

SD03・SK04・SK03



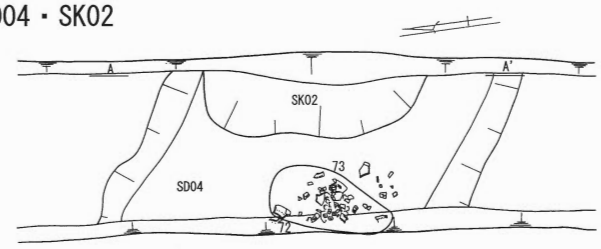
SD03
1　黒褐色シルト
SK04
1　黒褐色シルト＋黄褐色シルトブロック２～３cm大　10%混
2　黒褐色シルト＋黄褐色シルトブロック３～７cm大　30%混＋炭化物多湿混
SK03
1　灰褐色シルト

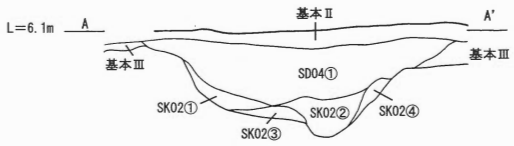
SK07



SK07
1　黒褐色シルト＋黄褐色シルトブロック１～３cm大　20%混
2　灰褐色シルト＋黒褐色シルト　30%混＋黄褐色シルト20%混
3　黄褐色シルト＋灰褐色シルト　10%混　しまり弱い

SD04・SK02





SD04
1　暗灰褐色シルト
SK02
1　灰褐色シルト
2　黒褐色シルト
3　灰褐色シルト＋黄褐色シルト　20%混
4　灰褐色シルト＋黄褐色シルト　40%混

0　1m
(1/40)

第７図　溝・土坑平面図　※番号は実測図番号

表１　遺構観察表

遺構番号	平面形態	長軸(検出長)	短軸(幅)	深さ	出土遺物	備考
SI01	楕円形	(4.20)	3.10	0.31	弥生土器、須恵器、土師器、管玉未製品、鉄滓	SD11、SK05、SK11より新しい
土坑1	楕円形	(3.00)	2.20	0.36		SI01より新しい、土坑2より古い
土坑2	楕円形	(1.76)	1.36	0.56		土坑1より新しい、土坑3より古い
土坑3	不明	(1.08)		0.30		土坑2より新しい
SB01-1	方形	0.57	0.48	0.15		SK04、SP22より古い
SB01-2	方形	0.58	0.50	0.21	弥生土器	SP25より古い
SB01-3	方形	0.66	0.50	0.19	弥生土器	
SB01-4	方形	0.75	0.50	0.13	弥生土器	
SB01-5	方形	0.45	0.41	0.12	弥生土器	
SB01-6	方形	0.85	0.74	0.21	弥生土器	SB03-SP36より古い
SB02-1	円形	0.70		0.26	弥生土器	
SB02-2	円形	0.65		0.24	弥生土器	
SB02-3	方形	0.45	(0.18)	0.21		北端は調査区外
SB03-SP23	円形	0.45		0.16	須恵器	
SB03-SP27	円形	0.54		0.13	弥生土器	
SB03-SP36	楕円形	0.40	0.32	0.16	弥生土器、須恵器	SB01-6より新しい
SB03-SP43	円形	0.48		0.35	弥生土器、土師器	
SP03-SP44	方形	0.48	0.45	0.38		
SB03-SP68	方形	0.58	(0.15)	0.20		東端は調査区外
SK01	不明	1.90	(0.70)	0.18	弥生土器、須恵器、土師器	SK10より新しい、北端・南端は調査区外
SK02	楕円形	1.18	0.33	0.32		SD04より古い
SK03	方形	0.55	0.42	0.08	弥生土器	SK04より新しい
SK04	円形	1.00		0.06	弥生土器、須恵器、焼土塊	SB01-1、SK03、SD03より新しい
SK05	隅丸方形	0.94	0.67	0.75	弥生土器	SI01より古い
SK06	円形	0.50		0.15		
SK07	不整形	1.87	0.95	0.16	弥生土器	
SK09	楕円形	0.78	(0.24)	0.51	弥生土器	西端は調査区外
SK10	隅丸方形	(0.70)	(0.50)	0.14	弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓	SD02より新しい、SK01より古い
SK11	楕円形	1.38	0.93	0.45	弥生土器	SI01より古い
SK12	楕円形	0.84	(0.32)	0.33	土師器	東端は調査区外
SD02	Ｓ字状	(2.40)	0.29	0.11	弥生土器、須恵器、土師器	SK10より古い
SD03	直線状	(13.40)	1.27	0.12	弥生土器、須恵器、鉄滓	SK04、SP91より古い
SD04	直線状	(0.75)	1.71	0.30	弥生土器	SK02より新しい
SD05（北）	直線状	(0.83)	0.50	0.10	弥生土器	北端・南端は調査区外
SD05（南）	直線状	(0.73)	0.61	0.66		北端・南端は調査区外
SD06	直線状	0.84	0.20	0.05		
SD07	直線状	1.02	0.38	0.35		
SD08	直線状	(0.38)	0.37	0.06		SP82、SP83より古い
SD09	直線状	2.76	0.82	0.52		SP78より古い
SD11	直線状	(0.90)	0.68	0.22	弥生土器	SI01より古い
SD12	不明	(0.85)	1.62	0.15	弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓	東端・西端は調査区外
SP01	不明	(0.48)	(0.18)	0.04		北端、西端は調査区外
SP02	円形	0.26		0.10		西端は調査区外
SP03	円形	0.28		0.15		
SP04	楕円形	0.58	0.30	0.32	須恵器	
SP05	円形	0.29		0.15		
SP06	円形	0.23		0.16		
SP07	円形	0.24		0.25		西端は調査区外
SP08	円形	0.25		0.35		
SP09	円形	0.30		0.12		
SP10	円形	0.36		0.49		
SP11	方形	0.25	0.22	0.27		
SP12	円形	0.29		0.30	土師器	西端は調査区外
SP13	楕円形	0.44	0.33	0.25		
SP14	楕円形	0.34	0.25	0.21		
SP15	楕円形	0.36	0.26	0.18	土師器	
SP16	円形	0.53		0.49		
SP17	円形	0.25		0.19	珠洲	SP18より新しい
SP18	円形	0.21		0.12		SP17より古い
SP19	円形	0.40		0.28		
SP20	円形	0.22		0.16		SP65より古い
SP21	円形	0.24		0.26		
SP22	円形	0.41		0.34		SB01-1より新しい

遺構番号	平面形態	長軸(検出長)	短軸(幅)	深さ	出土遺物	備考
SP24	円形	0.28		0.22		
SP25	円形	0.43		0.23		SB01-2より新しい
SP26	楕円形	0.55	0.27	0.20		
SP28	円形	0.33		0.38	弥生土器	
SP29	円形	0.26		0.15		
SP30	円形	0.36		0.09		
SP31	円形	0.35		0.19		
SP32	円形	0.26		0.13		
SP33	円形	0.25		0.17		
SP34	円形	0.25		0.40		
SP35	楕円形?	0.49	(0.23)	0.37	弥生土器	東端は調査区外
SP37	円形	0.30		0.41	弥生土器	
SP38	円形	0.24		0.12		
SP39	楕円形	0.33	0.28	0.39	弥生土器	
SP40	円形	0.33		0.29		
SP41	円形	0.30		0.21		
SP42	円形	0.45		0.47		
SP45	楕円形	0.33	0.25	0.17		
SP47	円形	0.23		0.07	弥生土器	
SP48	円形	0.30		0.30		
SP49	楕円形	0.84	0.48	0.15		
SP50	円形	0.46		0.15		
SP51	円形	0.22		0.05		
SP52	楕円形	0.21	0.15	0.16		
SP53	楕円形	0.28	0.19	0.26		
SP54	円形	0.30		0.30	弥生土器、土師器	
SP55	円形	0.28		0.33	弥生土器	
SP56	円形	0.28		0.35		
SP57	円形	0.27		0.35		
SP58	円形	0.34		0.20		
SP59	方形	0.37	0.32	0.12		
SP60	楕円形	0.32	0.26	0.13		
SP62	円形	0.23		0.21		
SP63	円形	0.23		0.17		南端は調査区外
SP64	円形	0.24		0.08		
SP65	円形	0.24		0.19		SP20より新しい
SP66	楕円形	0.48	0.35	0.21		
SP67	楕円形	0.85	0.69	0.11		
SP69	円形	0.16		0.10		
SP70	円形	0.28		0.33	弥生土器	
SP71	楕円形	0.25	0.16	0.17		
SP72	円形	0.27		0.15		
SP73	円形	0.23		0.14		
SP74	円形	0.24		0.30		
SP75	方形	0.30	0.20	0.23		
SP76	円形	0.30		0.26		
SP77	楕円形	0.32	0.25	0.10		
SP78	円形	0.26		0.34		SD09より新しい
SP79	楕円形	0.35	0.26	0.25		
SP80	円形	0.31		0.16		
SP81	円形	0.28		0.26	弥生土器、須恵器、土師器、鉄滓	
SP82	円形	0.37		0.27		東端は調査区外
SP83	楕円形?	0.50	(0.33)	0.20	弥生土器、土師器	西端は調査区外
SP84	円形	0.26		0.19		
SP85	円形	0.45		0.36		
SP86	楕円形	0.40	(0.19)			南端は調査区外
SP87	円形	0.23		0.43		SK04より新しい
SP88	楕円形	0.30	0.21	0.27	須恵器、土師器	
SP89	円形	0.46		0.12		
SP90	楕円形	0.60	0.36	0.28	弥生土器	
SP91	円形	0.35		0.16	弥生土器、須恵器、土師器	SD03より新しい
SP92	楕円形?	0.68	0.42	0.27	弥生土器、鉄滓	
SP93	楕円形	0.32	0.21	0.345	須恵器	

擬凹線を施す。３～６は擬凹線甕である。３は口縁部外面に３条の擬凹線、４は２条の沈線と４条の擬凹線、５は３条の擬凹線を施す。６は擬凹線後上部をナデケシし、２条の擬凹線が残る。７は付加状甕で、口唇面に３条の擬凹線を施す。８～10は平縁甕である。11～14は近江系の受口甕である。13は肩部外面にハケ状工具による連続刺突文、内面にケズリを施す。15～17は短頸壺である。16は有段短頸壺で、内外面に赤彩が施される。18・19は広口壺である。18は口縁部外面に７条の沈線を施す。20～22は甕か壺の底部である。23は台付甕の底部である。24～26は丹後系の擬凹線器台で、受部口縁が上下に拡張し、口縁端部は丸い。24は受部外面に4条の擬凹線、25は３条の擬凹線、26は６条の擬凹線を施す。27～30は高杯か器台の脚部である。29は裾端部に刻み目を施す。30は内外面に赤彩が施される。31～34は須恵器である。31・32は杯で、口縁部が小さく外反する。33は杯Ａの底部で、体部と底部の境は角張っている。34は杯蓋で、口縁部が断面三角形である。35～38は土師器の甕である。35は口縁部が外傾し上方に引き上げられ内側に段がつき、端面を面取りする。36は口縁部が外傾し上方に引き上げられ内側に段がつき、口縁端部は肥厚する。37・38は同一個体と考えられ、口縁部が外傾し口縁端部を丸くおさめる。口縁部内側にカキ目を施す。39・40は緑色凝灰岩製の管玉未製品である。41は鉄滓である。

SB01-2　42・43は弥生土器の甕である。42は擬凹線甕で、口縁部外面に４条の擬凹線を施す。外面に煤が付着する。43は肩部に木口の角を押し当てる刺突文を施す。

SB01-3　44・45は弥生土器である。44は甕で、肩部に線刻が見られる。45は高杯か器台の脚部で、円形の透かし穴を６方向に施す。

SB01-6　46・47は弥生土器である。46は甕で、肩部にハケ状工具による連続刺突文を施す。47は高杯か器台の脚部である。

SB02-2　48は弥生土器で、無頸壺である。外面全体に煤が付着する。

SB03-SP36　49は弥生土器の拡張有段高杯である。50は須恵器の杯蓋で、口縁端部が細長く立つ。

SB03-SP43　51は弥生土器の有段小型甕である。52は土師器の甕の底部で、底部内面に煤が付着する。

SP04　53は土師器の甕で、口縁部が外傾し端面を面取りする。

SP17　54は珠洲の擂鉢である。９条の卸し目が施される。

SP88　55は須恵器の杯で、口縁部が直線状に立ち上げる。56・57は土師器の椀である。56は体部が内湾気味に立ち上がり、端部を丸くおさめる。内外面に赤彩が施される。57は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部が小さく外反する。

SK01　58・59は須恵器の杯蓋である。58は口縁端部を内側に巻き込む。59は口縁端部を丸くおさめる。60～63は土師器の甕である。60は口縁部が外傾し端面を面取りする。口縁部外面に煤が付着する。61は頸部が直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反し端面を面取りする。62・63は口縁部が外傾し、口縁端部を丸くおさめる。

SK07　64は弥生土器の有稜甕である。

SD03　65～68は土師器である。65～67は甕である。65は口縁端部を内側に巻き込む。66は口縁部が外傾し端面を面取りする。67は口縁部が外傾し端面を面取りする。頸部外面に１条の沈線を施す。68は小型甕で、口縁端部を内側に巻き込む。

SD02　69は土師器の小型甕で、口縁部が内湾気味に立ち上がる。70は須恵器の杯で、口縁部が直線状に立ち上げる。

SD04　71～73は弥生土器である。71・72は有段壺である。71は口縁部内外面にヨコミガキを施す。72は口縁部内面にヨコミガキ、外面にタテミガキ、体部外面にはタテハケ後タテミガキを施す。73は拡張有段高杯である。

SD12　74・76は弥生土器である。74は拡張有段高杯である。76は高杯か器台の脚部である。裾端部に刻み目を施す。75は古式土師器の小型器台である。内外面にヨコミガキを施す。77は鉄滓である。

（2）包含層（第10～12図、写真図版10）

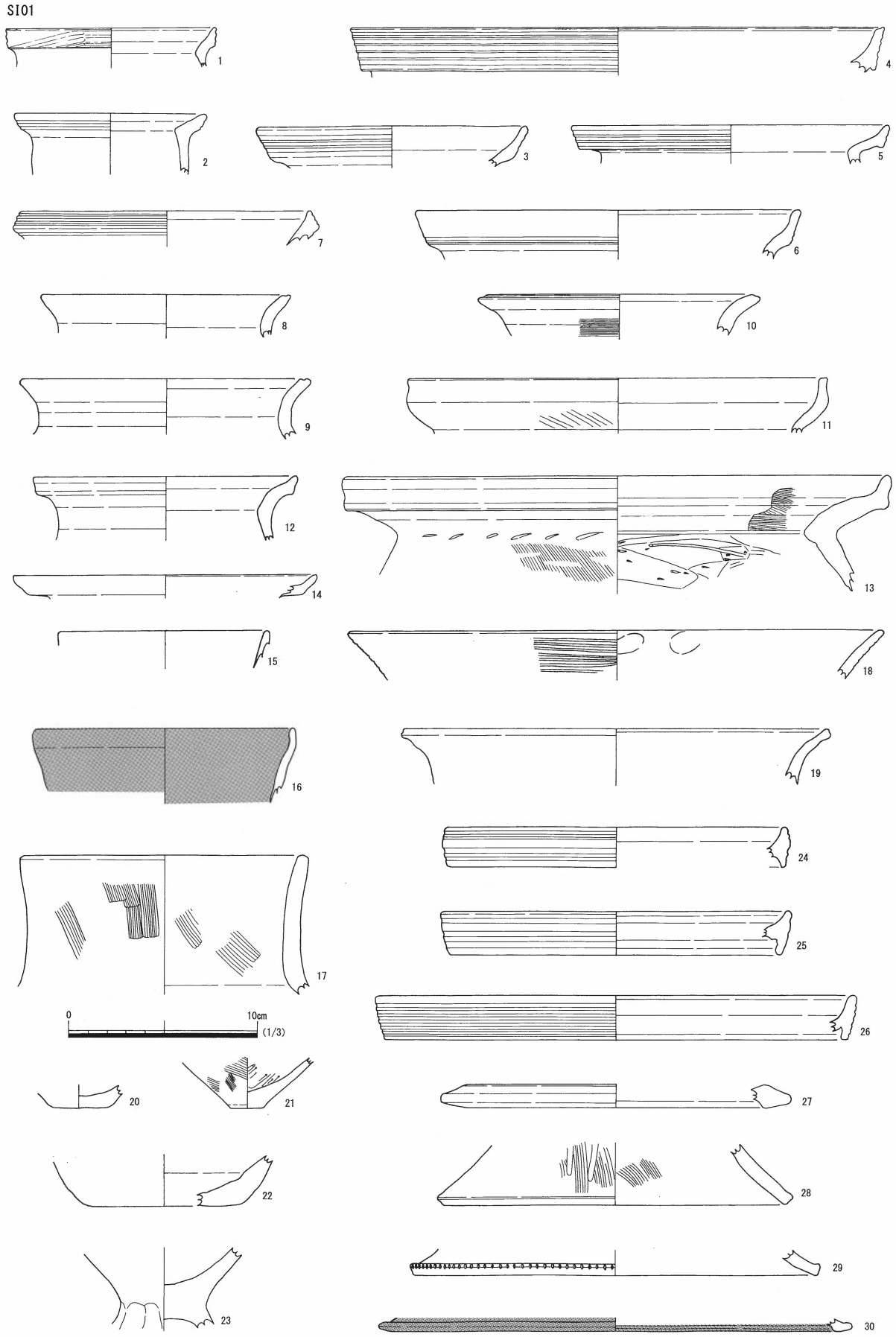
西区包含層　78・79は弥生土器である。78は短細頸壺である。79は擬凹線甕で、口縁部外面に2条の擬凹線を施す。80～82は須恵器である。80は杯蓋で、つまみがひし形である。81は杯Ａの底部で、底部と体部の境は丸い。82は甕か壺の底部で、回転ヘラ切り後低い高台が貼り付けられる。83～85は土師器である。83は椀の底部で、外底面に回転糸切り痕が見られる。84・85は甕で、口縁端部を丸く巻き込む。85は口縁部外面にヘラキズが見られる。86は珠洲の甕である。87は瓦器の擂鉢である。

北区包含層　88～99は須恵器である。88・89は杯蓋である。88はつまみが乳頭状である。89は口縁端部を丸く巻き込む。90～93は杯である。90・92・93は体部が直線的に立ち上がり、口縁部で小さく外反する。91は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部を丸くおさめる。94は杯Ａの底部で、底部と体部の境は丸い。95～97は杯Ｂの底部で、高台は貼り付け高台である。95は高台が平らである。96・97は高台が内傾している。98は広口壺である。99は壺の底部である。高台はやや内傾している。100～102は土師器である。100・101は甕である。100は口縁端部を丸く巻き込む。101は口縁部が外傾し端面を面取りする。102は椀の底部で、高台は貼り付け高台である。高台はつまみあげながら、端部を丸くおさめる。103は中世土師器である。

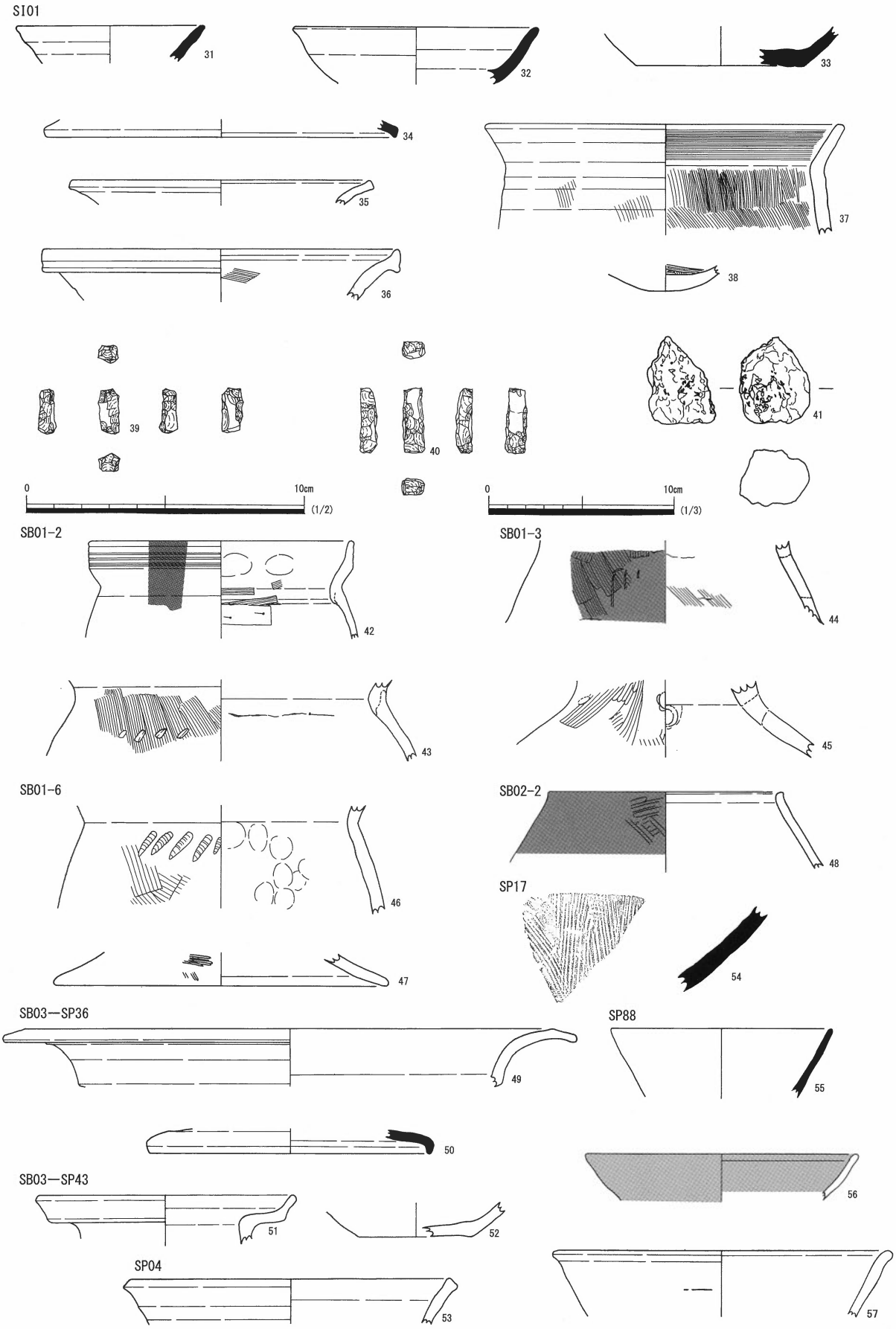
南区包含層　104・105は須恵器の杯である。104は口縁部が直転的に立ち上がり、口縁端部を丸くおさまる。105は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部で強く外反する。106は土師器の皿である。内外面に赤彩を施される。

東区包含層　107～111は須恵器である。107・108は杯蓋である。107は口縁端部を丸く巻き込む。108は口縁端部を丸くおさめる。外面に墨書で「戌」または「北」と一字書かれているが、正確な文字の判読は出来なかった。109・110は杯で、口縁部が直線状に立ち上げる。111は横瓶である。口縁部から肩部外面に焼成時に付着した自然釉などによる焼き膨れが見られる。112・113は土師器の椀である。112は外底面に回転糸切り痕が見られる。内外面に赤彩が施されている。113は高台が貼り付け高台である。外面に赤彩が施されている。114は珠洲の甕である。

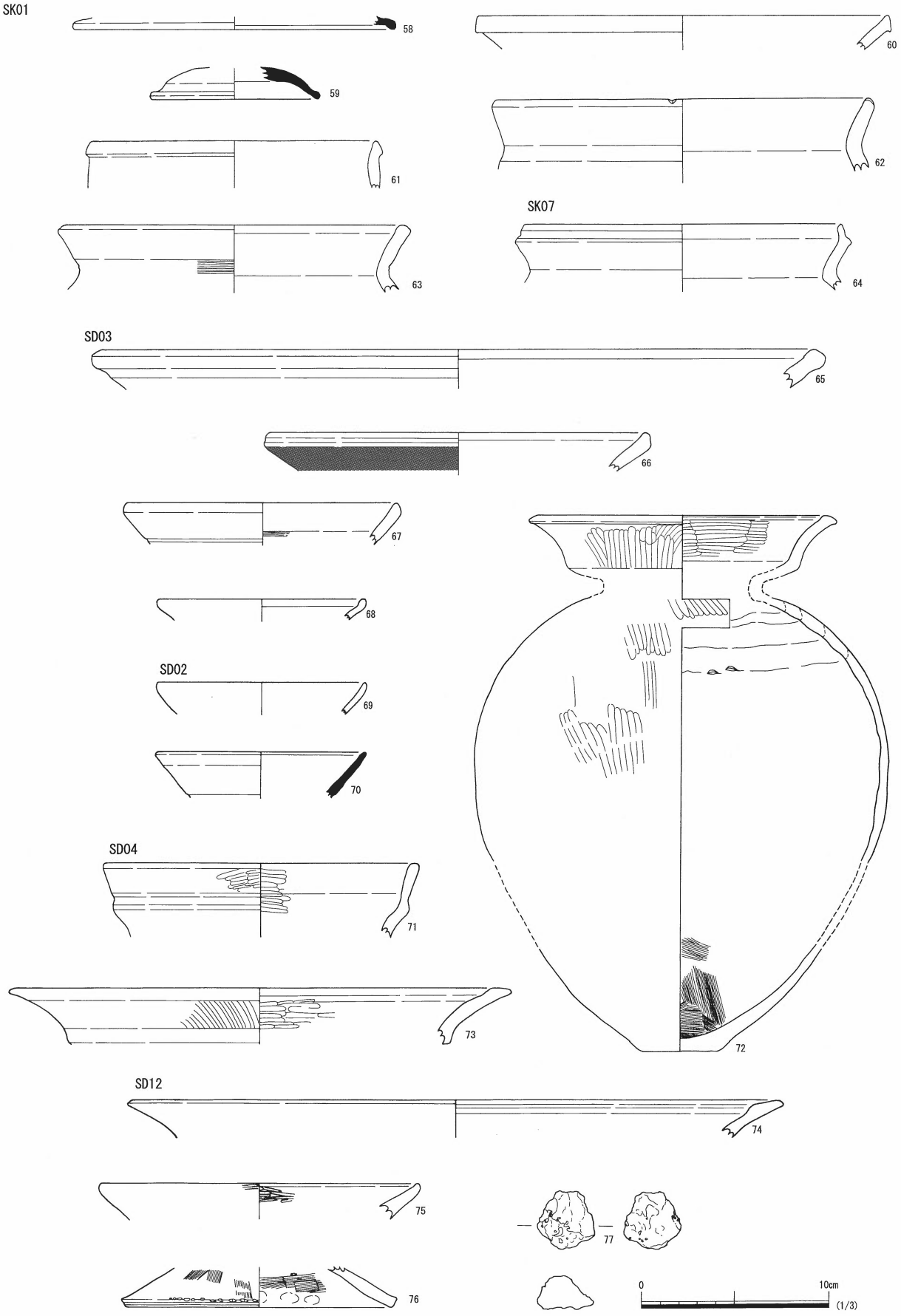
中央区包含層　115～131は弥生土器である。115～118は受口甕である。119は有段甕である。120は平縁甕である。121～126は擬凹線甕で、121～124は口縁部外面に２条の擬凹線を施す。125・126は半裁竹管による凹線文を施す。127は擬凹線壺で、口縁部外面に７条の擬凹線を施す。128は短頸壺である。129は甕か壺の底部である。130は高杯である。131は器台の脚部である。132～144は須恵器である。132～137は杯である。132～135は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部が小さく外反する。136・137は口縁部が直線状に立ち上げる。138～141は杯Ａで、体部と底部の境は丸い。138・139は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部が小さく外反する。142・143は杯Ｂの底部で、144は壺の底部である。高台は貼り付け高台で、高台が内傾している。145～156は土師器である。145は小型甕で、内面に煤が付着する。146～152は甕である。146・147は口縁端部を内側に巻き込む。148・151・152は口縁部が外傾し端面を面取りする。149・150は口縁部が外傾し、口縁端部を丸くおさめる。153～155は鍋で、口縁端部を内側に巻き込む。156は椀である。高台は貼り付け高台で、内傾している。内外面に赤彩が施される。157は中世土師器である。158・159は越中瀬戸の皿である。158は錆釉が施される。高台は削り出し高台である。159は錆釉が施される。160・161は土錘である。細辻真澄氏の分類〔細辻2001〕では、160は寸胴型ａ類、161は樽型ａ類に該当する



第８図　出土遺物実測図（１）

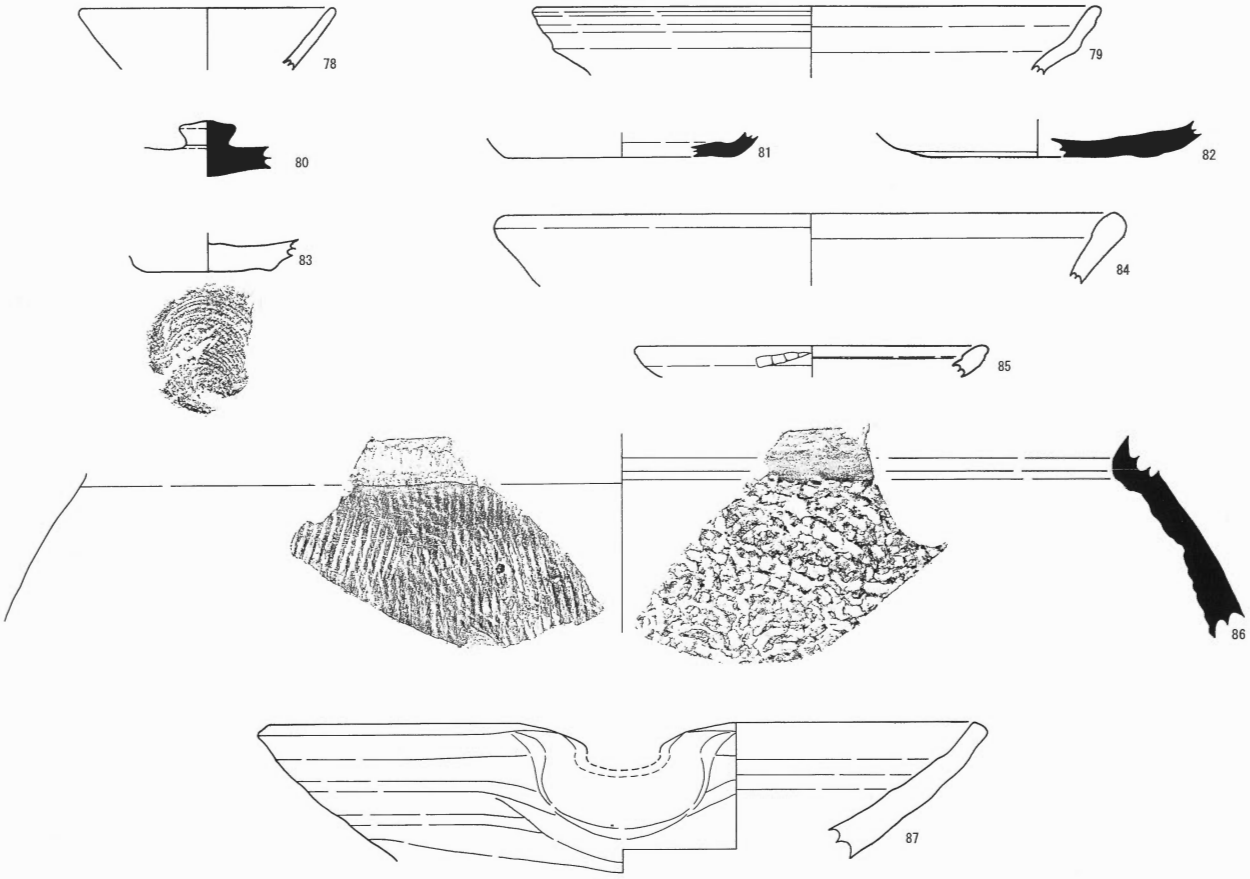


第９図　出土遺物実測図（２）　39・40は1/2、その他は1/3

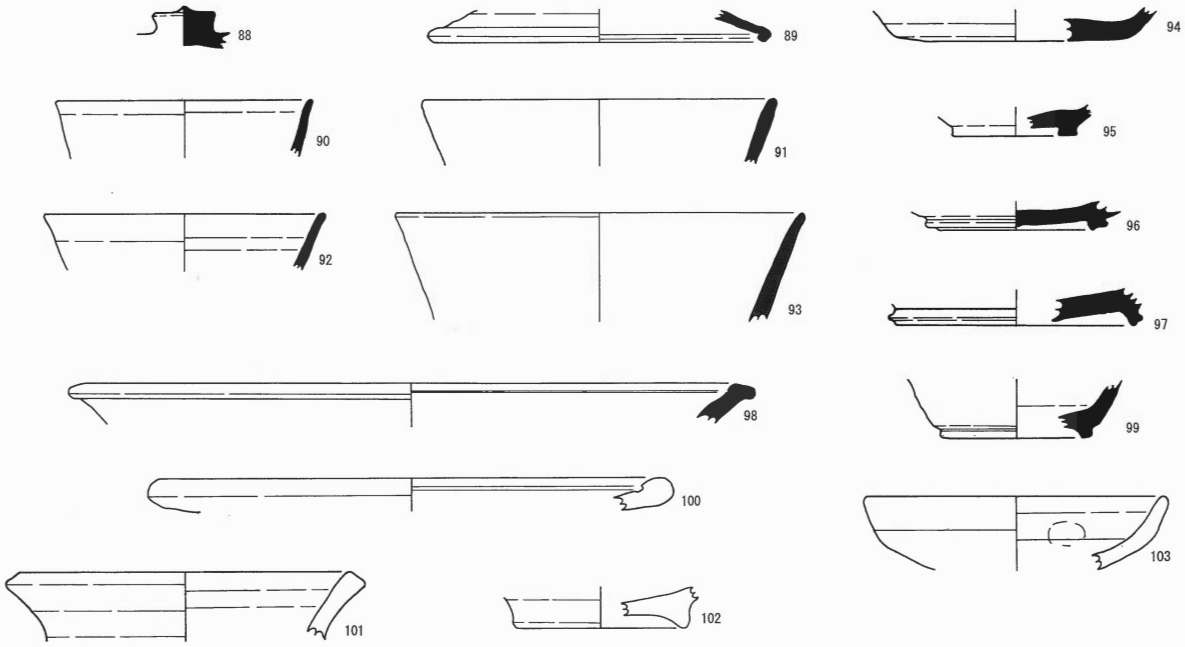


第10図　出土遺物実測図（3）

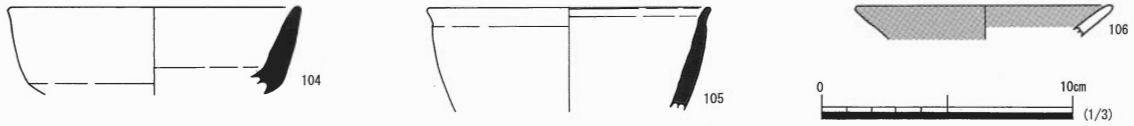
西区　包含層



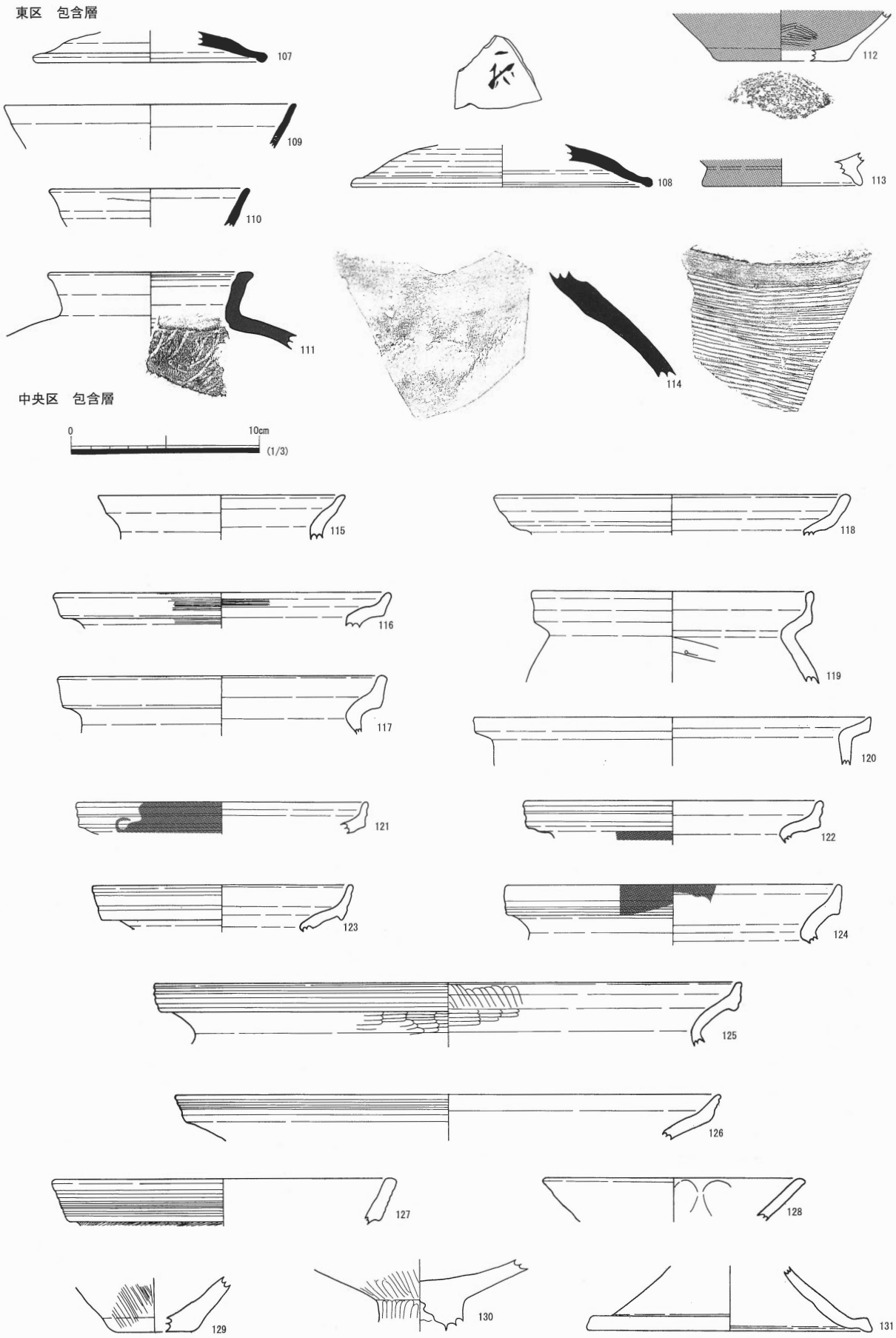
北区　包含層



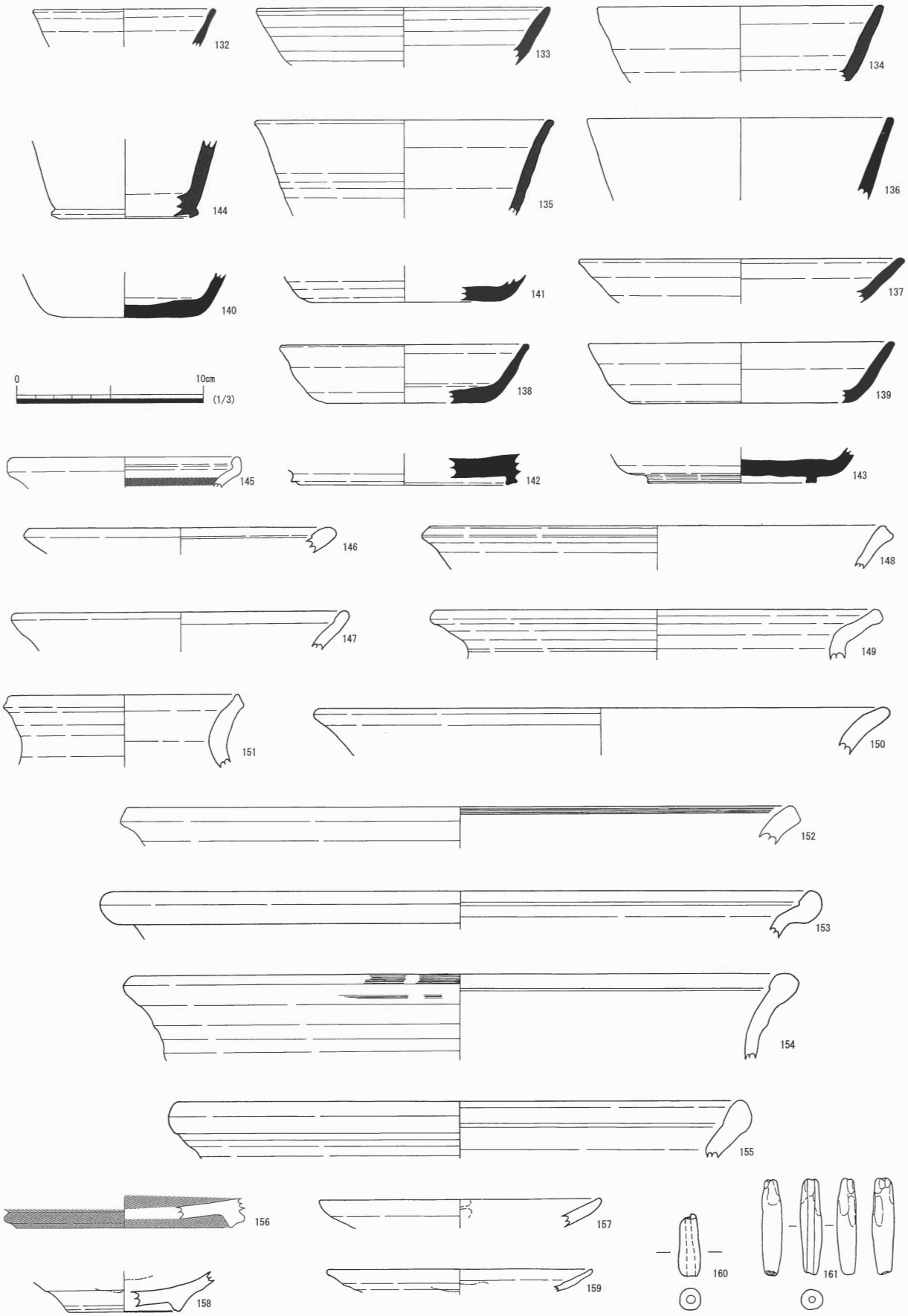
南区　包含層



第11図　出土遺物実測図（4）



第12図　出土遺物実測図（5）



第13図　出土遺物実測図（6）

表２　遺物観察表

No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	口縁内面調整	口縁外面調整	胴部内面調整	胴部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	内面色調	外面色調	備考
1	SI01	弥生土器	擬凹線小型甕	11.1			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線3条	ヨコナデ	ヨコナデ			によい橙色	によい橙色	
2	SI01	弥生土器	擬凹線小型甕	5.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条	ヨコナデ	ヨコナデ			によい橙色	灰黄褐色	
3	SI01	弥生土器	擬凹線甕	14.0			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線3条					灰白色	によい黄橙色	
4	SI01	弥生土器	擬凹線甕	28.0			密	良好	ヨコナデ	沈線2条 擬凹線4条					浅黄橙色	灰白色	
5	SI01	弥生土器	擬凹線甕	16.7			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線3条	ヨコナデ	ヨコナデ			灰白色	によい黄橙色	
6	SI01	弥生土器	擬凹線甕	19.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線後ナデケシ 擬凹線2条					灰白色	灰白色	
7	SI01	弥生土器	付加状甕	15.1			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線3条					灰白色	灰白色	
8	SI01	弥生土器	平縁甕	13.0			粗	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部沈線1条					橙色	赤色	
9	SI01	弥生土器	平縁甕	15.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ヨコハケ後ナデケシ 口縁端部沈線1条					灰褐色	橙色	
10	SI01	弥生土器	平縁甕	14.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部沈線1条 頸部ヨコハケ					橙色+浅黄橙色	浅黄橙色	
11	SI01	弥生土器	受口甕	22.0			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 頸部タテハケ後ヨコナデ 端部面とり					によい橙色	によい黄橙色	
12	SI01	弥生土器	受口甕	13.8			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			浅黄橙色	によい黄橙色+褐灰色	
13	SI01	弥生土器	受口甕	28.5			密	良好	ヨコナデ 一部ヨコハケ	ヨコナデ 頸部刺突文	ヨコケズリ	タテハケ後ナデケシ			浅黄橙色+灰白色	浅黄橙色	内面黒斑有り
14	SI01	弥生土器	受口甕	16.0			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					によい橙色	によい黄橙色	
15	SI01	弥生土器	短頸壺	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					褐灰色	灰白色	
16	SI01	弥生土器	有段短頸壺	13.6			密	良好	ナデ	ナデ					浅黄橙色+橙色(赤彩)	灰白色+橙色(赤彩)	内外面赤彩
17	SI01	弥生土器	短頸壺	14.6			やや粗	良好	タテハケ後ナデケシ	タテハケ後口縁上半 ヨコナデ					によい黄橙色	灰白色	
18	SI01	弥生土器	広口壺	28.0			密	良好	口縁端部ユビオサエ ヨコナデ	沈線7条					浅黄橙色	褐灰色	
19	SI01	弥生土器	広口壺	22.3			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
20	SI01	弥生土器	甕or壺			2.6	密	良好					ナデ	ナデ	橙色	によい橙色	
21	SI01	弥生土器	甕or壺			1.8	密	良好					タテケズリ	ヨコハケ後ナデケシ	によい黄橙色	によい黄橙色	
22	SI01	弥生土器	甕or壺			8.3	やや密	良好					ユビオサエ ヨコハケ後ナデケシ	ナデ	灰白色	橙色	
23	SI01	弥生土器	台付甕				やや粗	良好					ナデ	ナデ ユビオサエ	によい黄橙色	灰白色	
24	SI01	弥生土器	擬凹線器台	17.8			密	良好	ヨコナデ	擬凹線4条					によい黄橙色	黄灰色	
25	SI01	弥生土器	擬凹線器台	18.0			やや粗	やや良好	ヨコナデ	擬凹線3条					によい黄橙色	灰白色	
26	SI01	弥生土器	擬凹線器台	25.0			密	良好	ヨコナデ	擬凹線6条					浅黄橙色+褐灰色	浅黄橙色	
27	SI01	弥生土器	高杯or器台 有段脚	27.0			粗	良好					ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	灰白色	
28	SI01	弥生土器	高杯or器台			18.0	密	良好					タテハケ後ナデケシ	タテハケ後タテミガキ 裾端部面取り	浅黄橙色	によい橙色	
29	SI01	弥生土器	高杯or器台			21.0	密	良好					ヨコナデ	ヨコナデ 裾端部浅い刻み目	灰白色	灰白色	
30	SI01	弥生土器	高杯or器台 有段脚			23.2	密	良好					ヨコナデ	ヨコナデ 有段部端面ヨコハケ	灰白色+明赤褐色(赤彩)	灰白色+明赤褐色(赤彩)	内外面赤彩
31	SI01	須恵器	杯	10.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					暗灰黄色	灰黄褐色	
32	SI01	須恵器	杯	13.0			密	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰褐色	灰褐色	
33	SI01	須恵器	杯A			9.0	密	やや不良			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り ヨコナデ	黄灰色	黄灰色	
34	SI01	須恵器	杯蓋	18.7			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					黄灰色	灰黄褐色	
35	SI01	土師器	甕	16.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部面取り					灰白色	灰白色	
36	SI01	土師器	壺	19.0			密	良好	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコナデ					によい黄橙色	によい黄橙色	
37	SI01	土師器	甕	19.0			密	良好	カキメ ヨコハケ	ヨコナデ	上半タテハケ後カキメ タテハケ	ヨコナデ 一部タテハケ			浅黄橙色	浅黄橙色	38と同一個体
38	SI01	土師器	甕			2.0	密	良好					ヨコハケ	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	37と同一個体
39	SI01	管玉未製品		0.8	1.6												石材:緑色凝灰岩
40	SI01	管玉未製品		0.8	2.3												石材:緑色凝灰岩
41	SI01	鉄滓		3.8	4.7												
42	SB01-2	弥生土器	擬凹線甕	14.0			やや粗	良好	口縁部ユビオサエ ヨコハケ ヨコナデ	擬凹線4条 ヨコナデ	ヨコケズリ	ナデ			によい黄橙色	灰黄褐色	外面黒斑有り
43	SB01-2	弥生土器	甕				やや密	良好		ヨコナデ	ナデ	肩部刻み目 タテハケ			黒褐色	黄褐色	
44	SB01-3	弥生土器	甕				密	良好			タテハケ	線刻 タテハケ			灰白色	灰白色+黒色(黒斑)	外面黒斑有り
45	SB01-3	弥生土器	高杯ｏｒ器台				やや粗	良好					ヨコナデ	タテハケ後タテミガキ 円形透穴有り.6カ所か	によい黄橙色	によい黄橙色	
46	SB01-6	弥生土器	甕				密	良好			ヨコナデ後ユビオサエ	タテハケ後一部ナデケシ 頸部ハケ具による刻み目			によい黄橙色	灰白色	
47	SB01-6	弥生土器	高杯or器台	17.6			密	良好					ヨコナデ	ヨコミガキ	浅黄色	浅黄色	
48	SB02-2	弥生土器	無頸壺	12.4			密	良好	ヨコナデ	ヨコミガキ後タテミガキ					によい黄橙色	黒色(煤)	外面煤付着
49	SB03-SP36	弥生土器	拡張有段高杯	28.4			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
50	SB03-SP36	須恵器	杯蓋	15.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
51	SB03-SP43	弥生土器	有段小型甕	16.6			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
52	SB03-SP43	土師器	甕			6.1	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	静止糸切り	によい黄橙色	によい黄橙色	内面煤付着
53	SP04	土師器	甕	17.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部面取り					浅黄橙色	浅黄橙色	
54	SP17	珠洲	擂鉢				密	良好			卸し目9条	ヨコケズリ			によい黄橙色	によい黄橙色	
55	SP88	須恵器	杯	11.8			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
56	SP88	土師器	椀	14.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					によい黄橙色+暗赤褐色(赤彩)	によい黄橙色+暗赤褐色(赤彩)	内外面赤彩
57	SP88	土師器	椀	17.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
58	SK01	須恵器	杯蓋	17.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
59	SK01	須恵器	杯蓋	8.8			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					黄灰色	黄灰色	
60	SK01	土師器	甕	22.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
61	SK01	土師器	甕	15.0			やや粗	良好	ヨコハケ後ナデケシ	ヨコハケ後ナデケシ					浅黄橙色	橙色	
62	SK01	土師器	甕	20.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			によい黄橙色	によい黄橙色	
63	SK01	土師器	甕	17.8			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 頸部ヨコハケ	ヨコナデ	ヨコナデ			浅黄橙色	によい橙色	
64	SK07	弥生土器	有稜甕	16.8			やや密	やや不良	ヨコナデ	沈線1条 ヨコナデ					灰白色	灰白色	
65	SD03	土師器	甕	38.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
66	SD03	土師器	甕	20.0			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部面取り					浅黄橙色	浅黄橙色	外面煤付着
67	SD03	土師器	甕	14.4			密	良好	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコナデ 口縁端部面取り 頸部沈線					灰黄褐色	灰黄褐色	
68	SD03	土師器	小型甕	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
69	SD02	土師器	小型甕	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
70	SD02	須恵器	杯	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
71	SD04	弥生土器	有段壺	16.2			密	良好	ヨコナデ後ヨコミガキ	ヨコナデ後ヨコミガキ					浅黄橙色	浅黄橙色	
72	SD04	弥生土器	有段壺	15.2	28.8	4.0	やや密	良好	ヨコミガキ ヨコナデ	タテミガキ	ナデ	タテハケ後ナデケシ、 その後タテミガキ	タテハケ	ナデ	によい橙色+によい黄橙色	によい橙色+によい黄橙色	
73	SD04	弥生土器	拡張有段高杯				密	良好	ヨコミガキ ヨコナデ	タテミガキ ヨコナデ					灰白色	灰白色	
74	SD12	弥生土器	拡張有段高杯	34.5			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
75	SD12	古式土師器	小型器台	17.0			密	良好	ヨコミガキ ヨコナデ	ヨコミガキ					によい橙色	によい橙色	
76	SD12	弥生土器	高杯ｏｒ器台			14.0	やや密	良好			ヨコハケ	タテハケ	ヨコナデ ユビオサエ	タテハケ後ナデケシ 裾端部浅い刻み目	浅黄色	浅黄色	
77	SD12	鉄滓		3.1	3.1												
78	西区包含層	弥生土器	短細頸壺	10.0			粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					によい黄橙色	浅黄橙色	

No.	遺構	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	口縁内面調整	口縁外面調整	胴部内面調整	胴部外面調整	底部内面調整	底部外面調整	内面色調	外面色調	備考
79	西区包含層	弥生土器	擬凹線甕	22.6			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条					浅黄橙色	浅黄橙色	
80	西区包含層	須恵器	杯蓋				密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰色	自然釉付着
81	西区包含層	須恵器	杯A			8.8	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	灰白色	灰白色	
82	西区包含層	須恵器	甕ｏｒ壺			8.4	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り後、 低い高台貼り付け	灰色	灰色	
83	西区包含層	土師器	椀			5.0	密	良好				ヨコナデ	ナデ	回転糸切り	浅黄橙色	黄灰褐色+浅黄橙色	
84	西区包含層	土師器	甕	24.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色+橙色	
85	西区包含層	土師器	甕	13.7			密	良好	ヨコナデ	口縁部ヘラ傷有り ヨコナデ					灰白色	灰白色	
86	西区包含層	須恵器	甕				密	良好			平行タタキ	同心円タタキ			黄灰色	黄灰色	
87	西区包含層	瓦器	片口鉢	28.0			密 (骨針)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色～灰色	灰色	
88	北区包含層	須恵器	杯蓋				密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
89	北区包含層	須恵器	杯蓋	13.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					黄灰色	灰黄色	
90	北区包含層	須恵器	杯	10.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					褐灰色	褐灰色	
91	北区包含層	須恵器	杯	13.8			密 (骨針)	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
92	北区包含層	須恵器	杯	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰色	灰色	
93	北区包含層	須恵器	杯	16.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰色	
94	北区包含層	須恵器	杯A			9.4	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	灰色	灰白色	
95	北区包含層	須恵器	杯B			4.8	やや密	やや良好				ヨコナデ	ヨコナデ	平行糸切り後、 高台貼り付け	灰白色	灰白色	
96	北区包含層	須恵器	杯B			6.0	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り後、 高台貼り付け	黄灰色	灰色+黄灰	
97	北区包含層	須恵器	杯B			9.2	密	良好				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り後、 高台貼り付け	褐灰色	褐灰色	
98	北区包含層	須恵器	甕	25.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰黄色	灰色	内面自然釉付着
99	北区包含層	須恵器	壺			5.2	密	良好			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	高台貼り付け ヨコナデ	黄灰色	黄灰色	
100	北区包含層	土師器	鍋	20.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄色	淡黄色	
101	北区包含層	土師器	甕	13.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	浅黄橙色	
102	北区包含層	土師器	椀			6.7	密	良好					ナデ	高台貼り付け ヨコナデ	浅黄橙色	淡黄色	
103	北区包含層	中世土師器	皿	11.7			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ユビオサエ	ヨコナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
104	南区包含層	須恵器	杯	11.4			密	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰黄色	黄灰色	
105	南区包含層	須恵器	杯	11.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	褐灰色	
106	南区包含層	土師器	皿	10.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色+橙色(赤彩)	にぶい褐色+橙色(赤彩)	内外面赤彩
107	東区包含層	須恵器	杯蓋	12.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰色	灰色	
108	東区包含層	須恵器	杯蓋	15.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			黄灰色	黄灰色	外面に墨書「口」
109	東区包含層	須恵器	杯	15.4			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
110	東区包含層	須恵器	杯	10.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
111	東区包含層	須恵器	横瓶	10.7			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	平行タタキ	同心円タタキ			黒褐色	灰白色	外面灰付着
112	東区包含層	土師器	椀			6.8	密	良好			ヨコミガキ	ヨコナデ	ヨコミガキ	回転糸切り	浅黄橙色+橙色(赤彩)	浅黄橙色+橙色(赤彩)	内外面赤彩
113	東区包含層	土師器	椀			8.4	密	やや良好				ヨコナデ	ヨコナデ	貼付高台	黄褐色	浅黄橙色+橙色(赤彩)	外面赤彩
114	東区包含層	珠洲	甕				密 (骨針)	良好			押圧痕	打圧痕			灰色	灰色	
115	中央区包含層	弥生土器	受口甕	13.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコハケ					浅黄橙色+灰黄褐色	にぶい橙色	
116	中央区包含層	弥生土器	受口甕	15.8			粗	良好	ヨコナデ ヨコハケ	ヨコナデ ヨコハケ					にぶい黄橙色	褐灰色+灰白色	
117	中央区包含層	弥生土器	受口甕	17.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	浅黄橙色+灰白色+褐灰色	
118	中央区包含層	弥生土器	受口甕	18.6			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色+橙色	浅黄橙色+橙色	
119	中央区包含層	弥生土器	有段甕	14.8			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコケズリ	ナデ			浅黄色	浅黄橙色	
120	中央区包含層	弥生土器	平縁甕	21.0			粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ	ナデ			淡黄色	黄灰色+灰白色	
121	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	15.3			粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条					にぶい黄橙色	灰黄褐色	外面煤付着
122	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	15.6			粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条					にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	外面煤付着
123	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	13.6			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条					灰白色	灰白色	
124	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	17.6			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ 擬凹線2条					橙色	浅黄橙色	内外面煤付着
125	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	31.0			密	良好	タテミガキ ヨコミガキ	竹管による凹線 ヨコミガキ					にぶい橙色	にぶい橙色	
126	中央区包含層	弥生土器	擬凹線甕	28.8			やや粗	やや良好	ヨコナデ	竹管による凹線 ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
127	中央区包含層	弥生土器	擬凹線壺	17.5			密	良好	ヨコナデ	擬凹線5条 頸部タテハケ ヨコナデ					にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
128	中央区包含層	弥生土器	短頸壺	13.6			密	良好	ユビオサエ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
129	中央区包含層	弥生土器	甕or壺			4.2	粗	良好				タテハケ	ナデ	ハケ	褐灰色+浅黄橙色	浅黄橙色	底部編代底
130	中央区包含層	弥生土器	高杯				やや密	良好			ヨコナデ	タテミガキ			浅黄色	浅黄色	
131	中央区包含層	弥生土器	高杯or器台	15.0			粗	良好			ナデ	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色+にぶい黄橙色	浅黄橙色	
132	中央区包含層	須恵器	杯	9.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰白色	灰白色	
133	中央区包含層	須恵器	杯	15.4			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰白色	灰白色	
134	中央区包含層	須恵器	杯	15.0			密	不良	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰白色	浅黄色	
135	中央区包含層	須恵器	杯	15.7			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			灰白色	灰白色	
136	中央区包含層	須恵器	杯	15.6			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			橫灰色	黄灰色	
137	中央区包含層	須恵器	杯	17.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			褐灰色	褐灰色	
138	中央区包含層	須恵器	杯A	13.0	3.1	8.3	密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	灰黄色+黄灰色	灰黄色+黄灰色	
139	中央区包含層	須恵器	杯	16.0	3.2	11.6	密	不良	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色+褐灰	
140	中央区包含層	須恵器	杯A			6.6	密	良好			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヘラ切り	褐灰色	褐灰色	
141	中央区包含層	須恵器	杯A			10.0	密	良好			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	平行糸切り	灰白色	灰白色	
142	中央区包含層	須恵器	杯B			11.0	密	良好					ヨコナデ	回転ヘラ切り後、 高台貼り付け	黄灰色	黄灰色	
143	中央区包含層	須恵器	杯B			7.2	密	良好					ヨコナデ	平行糸切り後、 高台貼り付け	灰白色	灰白色	
144	中央区包含層	須恵器	壺			7.0	密	やや良好			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	高台貼り付け	黄灰色	黄灰色	
145	中央区包含層	土師器	甕	12.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	にぶい橙色+灰白色	内面煤付着
146	中央区包含層	土師器	甕	16.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	浅黄橙色	
147	中央区包含層	土師器	甕	17.6			やや密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
148	中央区包含層	土師器	甕	24.0			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
149	中央区包含層	土師器	甕	23.4			密	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
150	中央区包含層	土師器	甕	30.0			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
151	中央区包含層	土師器	甕	12.0			やや粗	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			にぶい橙色	にぶい黄橙色	
152	中央区包含層	土師器	甕	35.4			やや密	良好	口縁部ヨコハケ ヨコナデ	ヨコナデ					浅黄橙色	浅黄橙色	
153	中央区包含層	土師器	鍋	37.0			密	良好	ヨコハケ後ナデケシ	ヨコナデ ヨコハケ					浅黄橙色	浅黄橙色	
154	中央区包含層	土師器	鍋	34.0			密	良好	ヨコナデ	ハケヨコナデ後ナデケシ					浅黄橙色	浅黄橙色	
155	中央区包含層	土師器	鍋	29.9			やや粗	良好	ヨコナデ	ヨコナデ					灰白色	灰白色	
156	中央区包含層	土師器	椀			11.4	密	良好					ナデ	回転ヘラ切り後、 高台貼り付け	橙色	浅黄橙色+明赤褐色	内外面赤彩
157	中央区包含層	土師器	皿	14.8			密	良好	ユビオサエ ヨコナデ	ヨコナデ					にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	
158	中央区包含層	越中瀬戸	皿			5.8	密	良好					ヨコナデ	高台削り出し ヨコナデ	にぶい黄橙色+暗褐色(釉)	にぶい黄橙色+暗褐色	鉄釉
159	中央区包含層	越中瀬戸	皿	14.0			密	良好					ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色+暗赤褐色(釉)	にぶい橙色+暗赤褐色(釉)	鉄釉
160	中央区包含層	土錘		1.2	3.3		密	良好							灰白色		寸胴型ａ類
161	中央区包含層	土錘		1.1	5.2		密	良好							浅黄橙色		樽型ａ類 手づくね

第Ⅳ章　総括

第１節　遺跡の変遷について（第13図）

本報告調査区からは、弥生時代後期～江戸時代の遺構・遺物を確認した。各時代について、隣接する平成19・22年度調査区を含めて検討する。

（１）弥生時代

遺物　本遺跡出土の弥生土器は、後期前半の猫橋式である。市内で猫橋式が出土する遺跡は、江代割遺跡〔富山市教委1988〕や小竹貝塚SD01〔富山市教委2013〕などがある。

田嶋明人氏は後期初頭から中葉にかけて畿内Ｖ様式併行期の土器群を（仮称）Ｖ－１～３群の３期に区分し、猫橋式をＶ－１・２群に当てている〔田嶋2007〕。久田正弘氏は東北系の天王山式土器が猫橋式後半から法仏式初頭にかけて供伴する段階を田嶋氏のＶ－３群とするのが妥当であるとした〔久田2009〕。岡田一広氏は、小竹貝塚SD01出土の猫橋式について、①近畿系「く」の字甕で口唇部に擬凹線を施すものがありヨコナデによる口唇面を形成するものはない、②器台で脚部が大きく開き脚基部の径があまり小さくならない筒形に近い形状のものがある、③有段口縁で外面に擬凹線を施すＶ－３群以降に北陸型の甕となるものがない、④東北系の遺物を含まないという特徴からＶ－１・２群に位置づけている〔富山市教委2013〕。

本遺跡出土の猫橋式は、岡田氏が指摘する特徴を持つ。①は７、②は28の土器が該当すると考える。③北陸型甕、④東北系遺物は、本報告および平成19・22年度調査区でも出土は見られない。丹後系擬凹線器台は、丹後後期Ⅱ期〔野島・野々口1999〕に該当するもので、丹後からの搬入もしくは模倣と考える。以上の点から、本遺跡出土の猫橋式は田嶋氏編年のＶ－１・２群に位置づけられると考える。

今回出土した土器は、県内で発掘例の少ない猫橋式期の土器様相を知る上での重要な資料であり、富山県における当該期の土器編年を補完するものと言える。

遺構　竪穴建物１棟（SI01）、平地式建物２棟（SB01、SB02）、溝（SD04、H22-SD2）などがある。遺構は、調査区南側から平成22年度調査区にやや集中している。

竪穴建物SI01からは、緑色凝灰岩の管玉未製品（81・82）や破片が出土し、SI01が玉作り工房跡の可能性がある。平地式建物SB01・SB02の主軸方向がほぼ同じであり、竪穴建物SI01と同時期の土器が出土することから、竪穴建物に併設し並んで建っていたものと考える。

長瀬氏は、射水平野を流れる下条川中流域に立地する弥生時代の遺跡群をVa群とし、下条川の東を流れる新堀川流域は遺跡の希薄さから遺跡群の設定は行わなかった〔長瀬2002〕。本報告および針原西遺跡・小竹貝塚などの近年の発掘調査で、新堀川支流鍛冶川・新鍛冶川流域に弥生時代の遺跡が確認され、Va群は下条川中流域から新堀川流域の範囲まで広がるものと考える（第14図）。

（２）平安時代

遺物　須恵器、土師器、土錘、鉄滓がある。須恵器・土師器は、口縁部の形状や法量などから９世紀中頃～後半に帰属する。

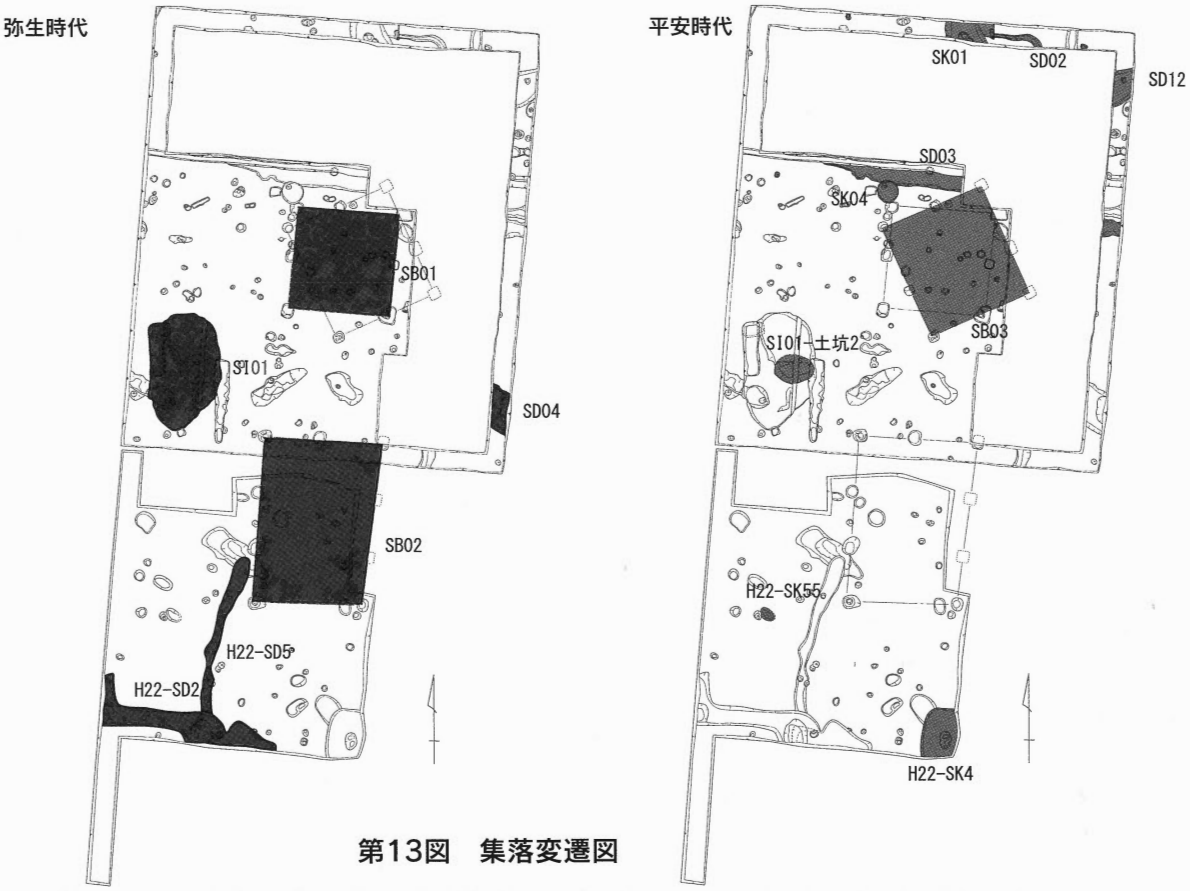
遺構　掘立柱建物１棟（SB03）、土坑（SK01、SK04、H22-SK4）、溝（SD03、SD12）などがある。遺構は、調査区北側にやや集中している。

SK04は埋土から焼土塊が出土し、床面には被熱痕跡は確認できなかったが炭層が一面に広がることから、土師器焼成遺構の可能性がある。また、鉄滓が出土していることから、周辺に製鉄炉などの製鉄関連遺構の存在が推測される。生産関連遺構とともに掘立柱建物SB03や竪穴建物の可能性があるH22-SK4などの建物遺構もある。このことから、本遺跡が呉羽丘陵から射水丘陵にかけて広がる古代婦負郡の一大手工業生産地帯の生産集落の一つである可能性がある。

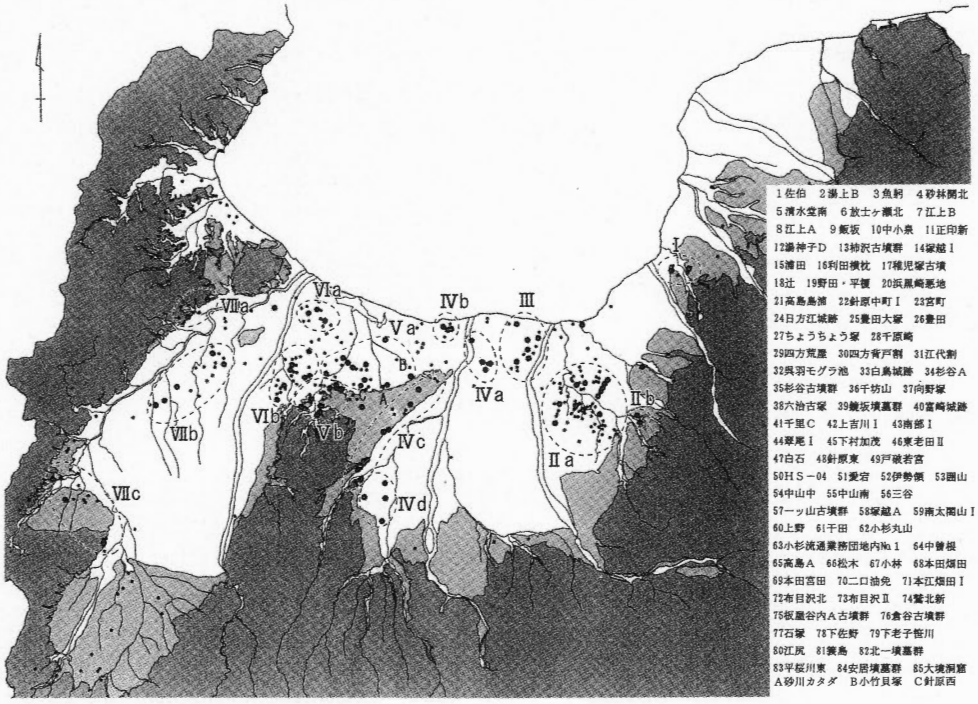
（3）室町時代～江戸時代

遺物　中世土師器、珠洲、越中瀬戸がある。中世土師器は13世紀後半～14世紀前半に帰属する。

遺構　遺物が出土した遺構は、珠洲の出土したSP17のみで、その他の遺物は包含層から出土した。平成19年度調査では、鎌倉時代～室町時代の溝などを確認しているが、遺構密度はかなり薄く、本報告調査区周辺は鎌倉時代末の集落の縁辺部と考える。



第13図　集落変遷図



第14図　弥生時代の遺跡分布図　長瀬作図〔長瀬2002〕の一部修正加筆

引用・参考文献

池野正男1988「越中における須恵器生産の概要」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

岡本淳一郎2006「４　砺波平野北部の古墳出現期土器」『下老子笹川遺跡発掘調査報告』　㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

岡田一広2013「第Ｖ章　総括」『富山市小竹貝塚発掘調査報告書』　富山市教育委員会

楠正勝1996「第５章　まとめ」『西念・南新保遺跡Ⅳ』　金沢市・金沢市教育委員会

楠正勝2003「装飾器台の成立と展開」『庄内式土器研究ＸＸⅥ』　庄内式土器研究会

小杉町教育委員会2000『塚越貝坪遺跡，畑総№15遺跡発掘調査概要』

小杉町教育委員会2004『針原西遺跡発掘調査報告書』『富山県福岡町木舟城跡発掘調査報告－範囲確認調査報告－』　福岡町教育委員会

高橋浩二2000「古墳出現期における越中の土器様相」『庄内式土器研究ＸＸⅡ』　庄内式土器研究会

高橋浩二2002「北近畿系統の土器と山陰系統の土器－越中弥生後期・終末期における日本海沿岸交流の諸段階－」『富山大学人文学部紀要　第37号』　富山大学人文学部

田嶋明人2007「法仏式と月影式」『石川県埋蔵文化財情報　第18号』　㈶石川県埋蔵文化財センター

㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2004『富山県射水郡小杉町黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告』

富山市教育委員会1970『富山市金草第一号窯跡調査報告』

富山市教育委員会1973『呉羽丘陵城山南部の自然科学および文化史跡調査報告書』

富山市教育委員会1975『富山市古沢遺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会1976『富山市古沢・金屋地内古墳概要調査報告書』

富山市教育委員会1982『富山市古沢・西金屋地内遺跡試掘調査概要』

富山市教育委員会1983『富山市古沢Ａ遺跡発掘調査概要』

富山市教育委員会1984『富山市呉羽山丘陵古墳分布調査報告書』

富山市教育委員会1988『昭和62年度　富山市埋蔵文化財発掘調査概要』

富山市教育委員会1999『栃谷南遺跡』

富山市教育委員会2002『富山市向野池遺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会2003『富山市内遺跡発掘調査概要Ｖ　－水橋二杉遺跡・願海寺城跡・北代遺跡－』

富山市教育委員会2004『富山市の遺跡物語所報№5』

富山市教育委員会2005『富山市願海寺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会2006a『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅰ　－砂川カタダ遺跡・西二俣遺跡－』

富山市教育委員会2006b『富山市東老田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会2011『富山市内遺跡発掘調査概要Ｖ　－砂川カタダ遺跡・今市遺跡－』

富山市教育委員会2012a『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅵ　－西金屋・西金屋窯跡　米田大覚遺跡－』

富山市教育委員会2012b『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅶ』

富山市教育委員会2014『富山市内遺跡発掘調査概要Ｘ　－南部Ⅰ遺跡・願海寺城跡・今市遺跡・西二俣遺跡・花ノ木Ｃ遺跡・砂川カタダ遺跡・東老田Ⅰ遺跡－』

富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会2000『富山市西金屋窯跡発掘調査概要』

長瀬出2002「富山県における弥生集落の展開」『富山考古学研究紀要　第５号』　㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

西井龍儀・小林高範2005「呉羽山古道の調査」『大境』第25号　富山考古学会

野島永・野々口陽子「近畿地方北部における古墳成立期の墳墓(1)」『京都府埋蔵文化財情報　第74号』　㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター

藤井昭二1992「４　富山平野」『北陸の丘陵と平野』アーバンクボタ№31　株式会社クボタ

藤田富士夫2002「古代婦負郡の「郷」擬定と栃谷南遺跡の位置」『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　富山市教育委員会

細辻真澄2001「任海宮田遺跡の土錘について」『富山考古学研究紀要　第４号』　㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

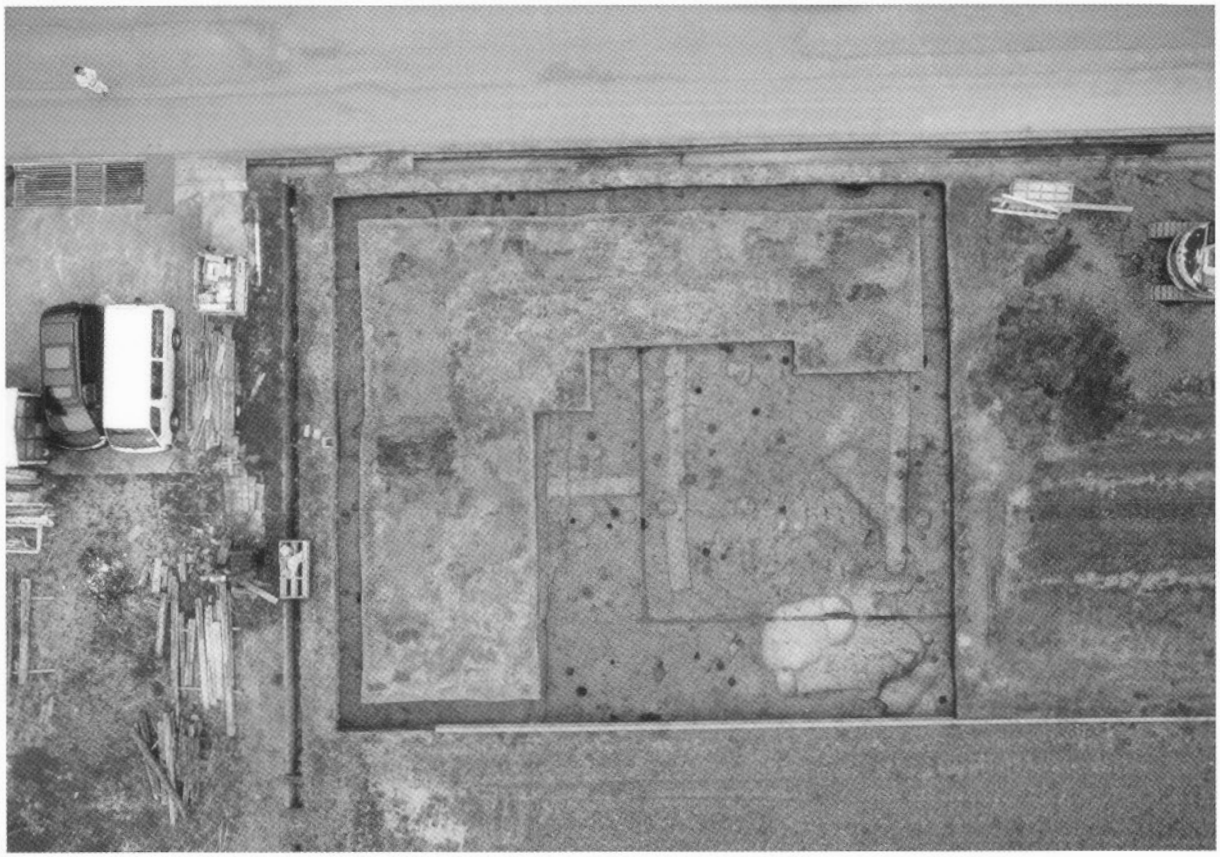
細辻真澄2003「任海宮田遺跡の土錘について２」『富山考古学研究紀要　第６号』㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

堀沢祐一2008「富山市花ノ木Ｃ遺跡の祭祀具について」『富山市考古資料館報　№45』　富山市考古資料館

宮田進一1988「越中の古代後半期の土師器」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

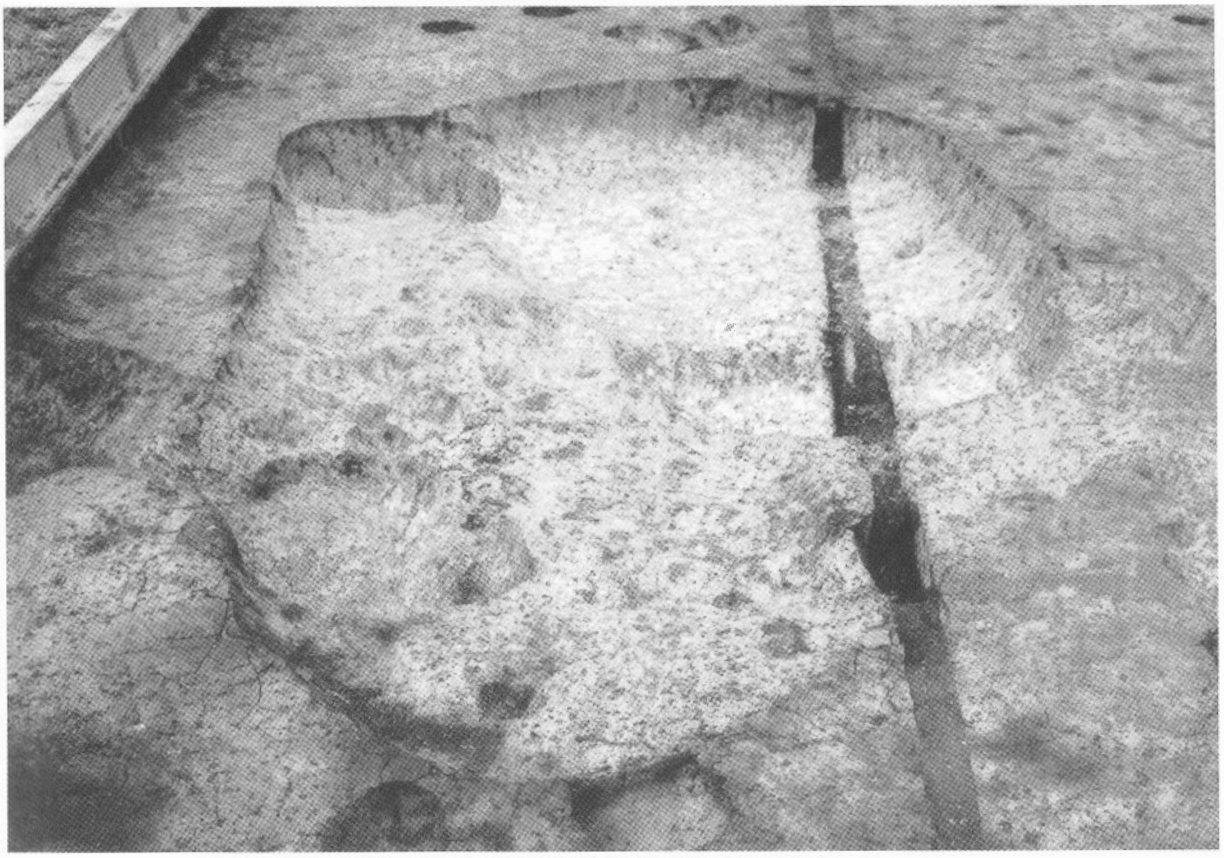
森隆2003「富山県の中世土器(資料編)」『富山考古学研究紀要　第６号』㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

森隆2005「富山県の中世土器（資料編２）」『富山考古学研究紀要　第８号』㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

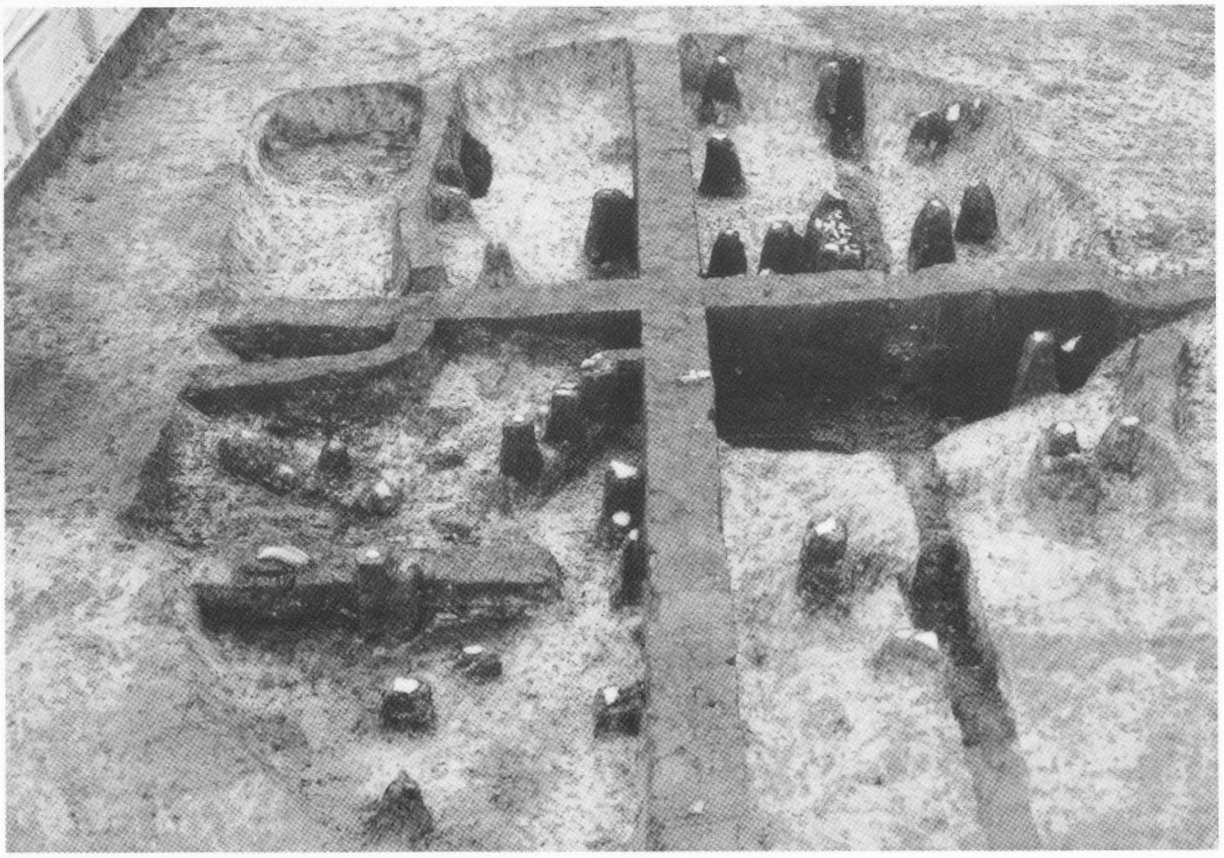


調査区全景（上空から）※左が北

調査区全景（南から）

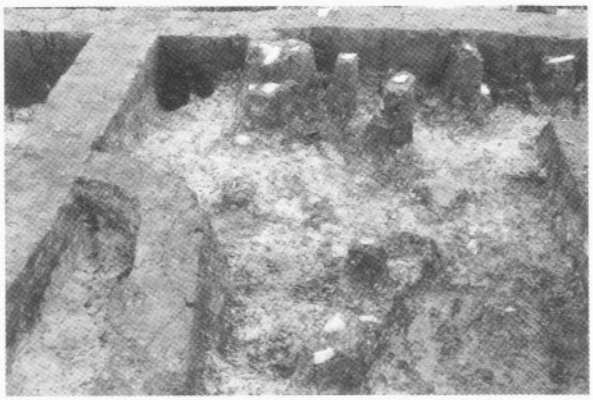


SI01 完掘（南から）



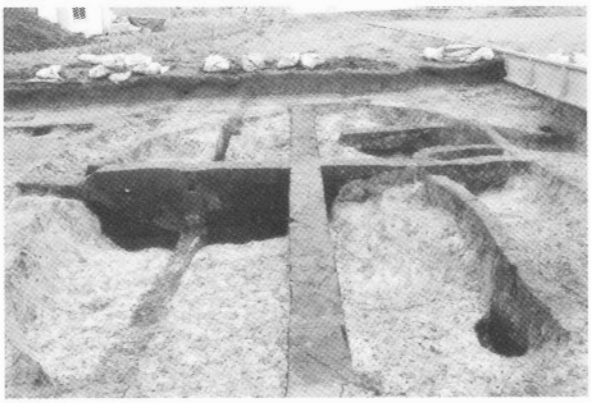
SI01遺物出土状況（南から）

SI01 遺物出土状況近景

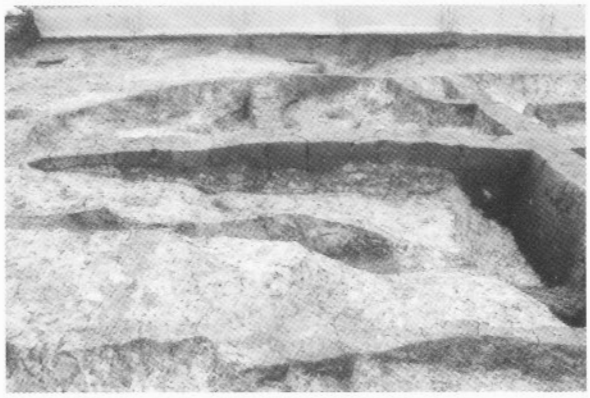


SI01 遺物出土状況近景

SI01 管玉未製品出土状況近景



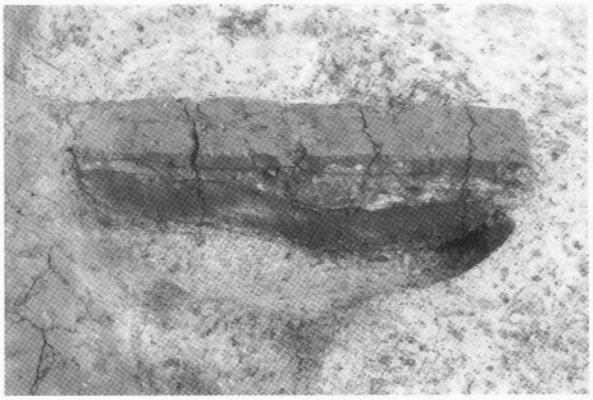
SI01 東西断面（北から）



SI01 南北断面南半分（東から）

SI01 南北断面北半分（東から）

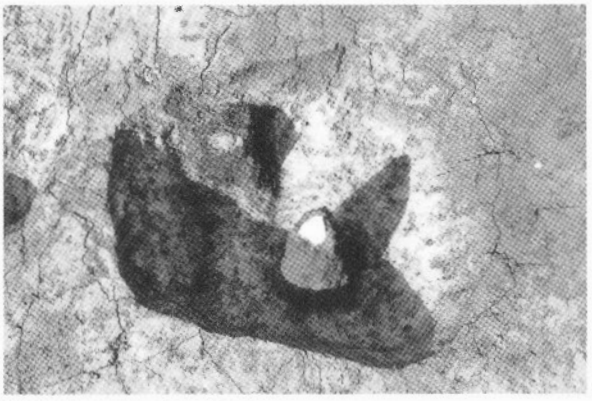
SK05 断面（南から）



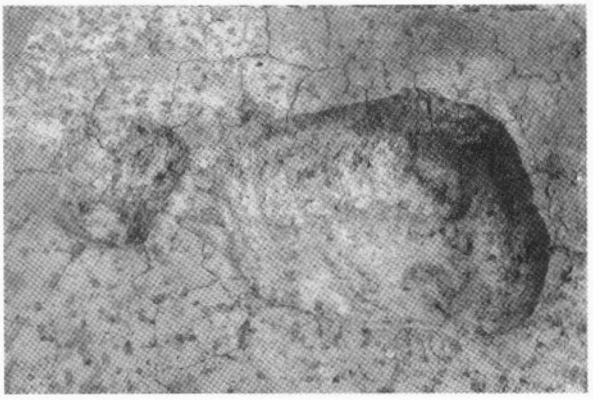
SK11 断面（南から）

SB01 完掘（南から）

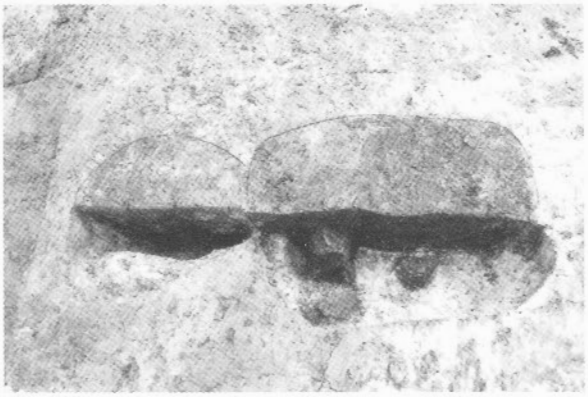
SB02 完掘（西から）



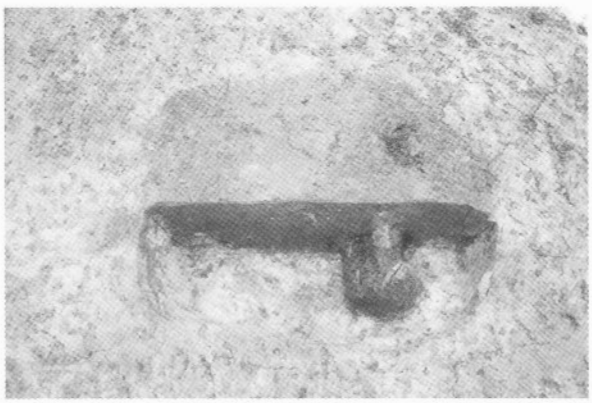
SB02-1 遺物出土状況（南から）



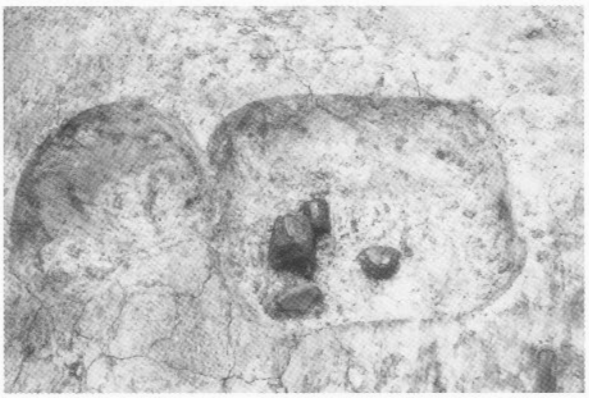
SB02-1 完掘（南から）



SP25・SB01-2 断面（西から）



SB01-3 断面（西から）



SP25・SB01-2 遺物出土状況（西から）

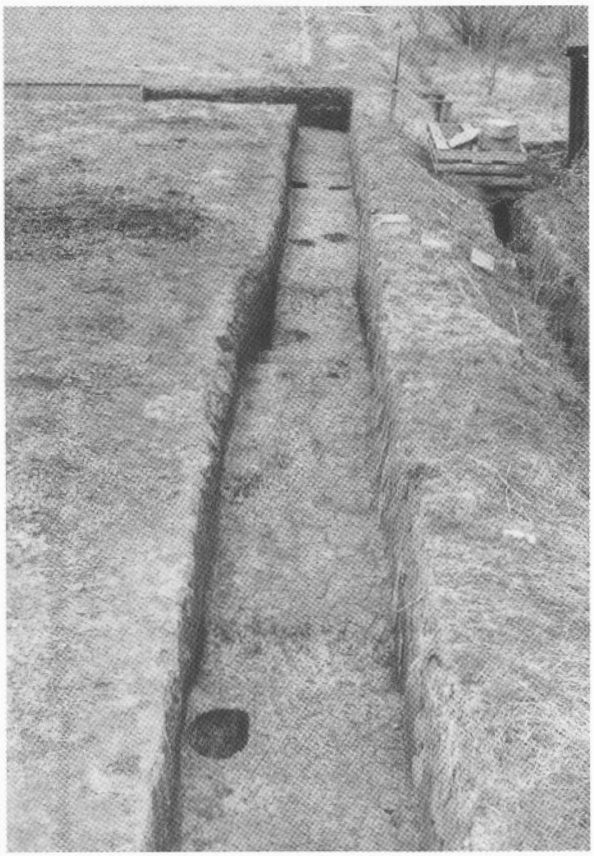
SB01-3 遺物出土状況（西から）

SP25・SB01-2 完掘（西から）

SB01-3 完掘（西から）

SB03 完掘（南東から）

SB03-SP36・SB01-6 断面（南から）

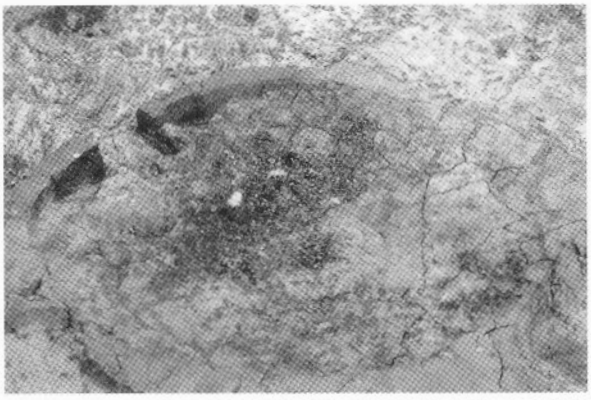


北区完掘（東から）

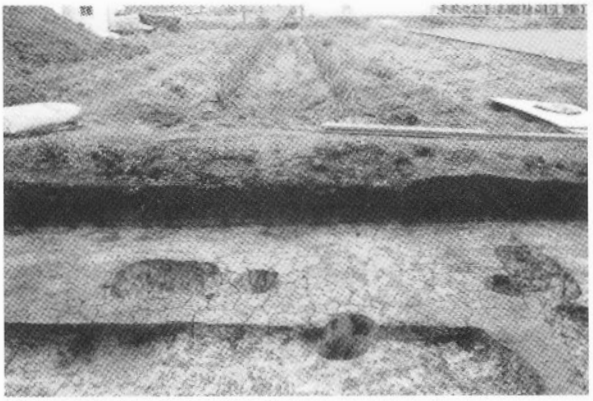
東区完掘（南から）

SD04 遺物出土状況（東から）

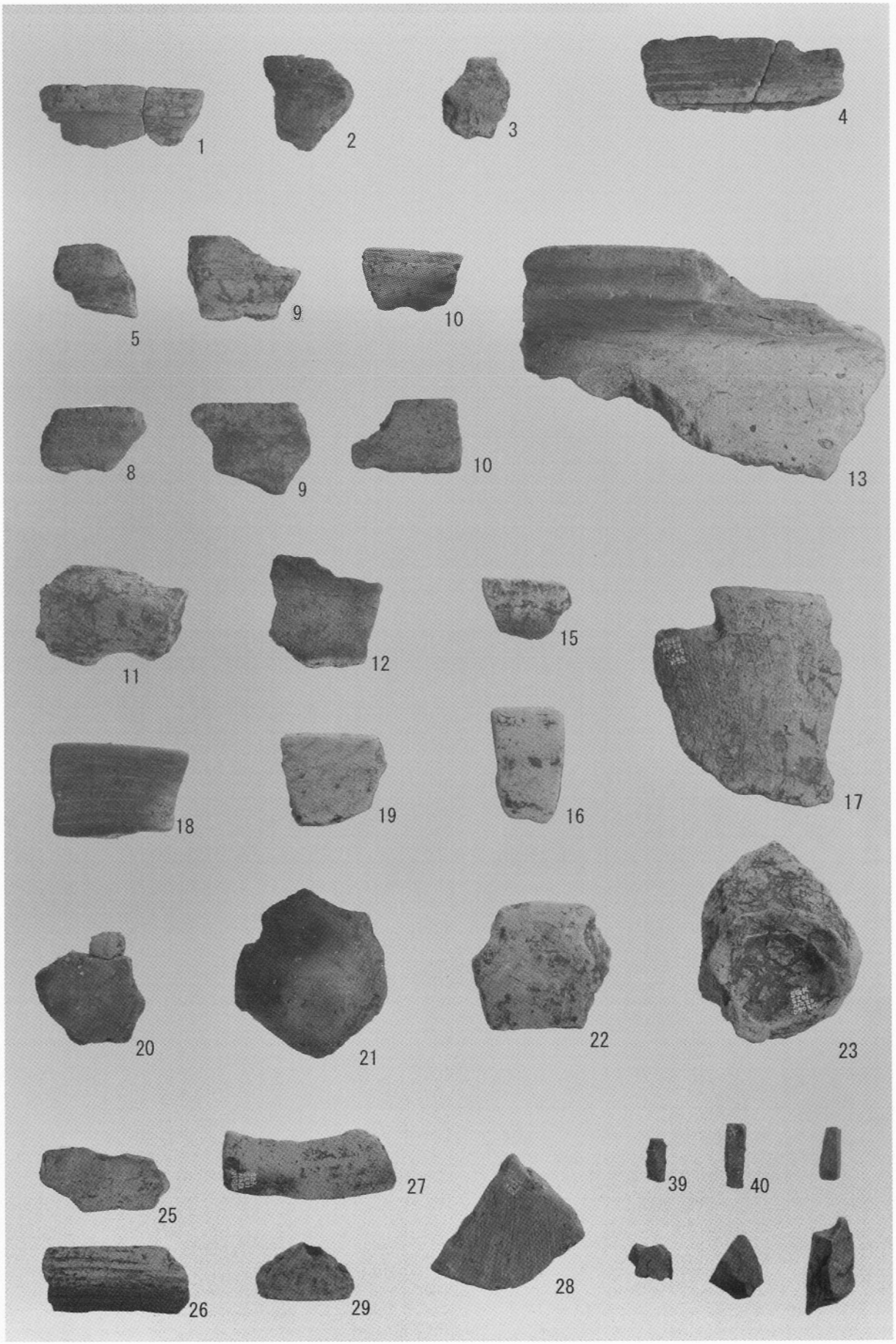
SD04・SK02 断面（西から）



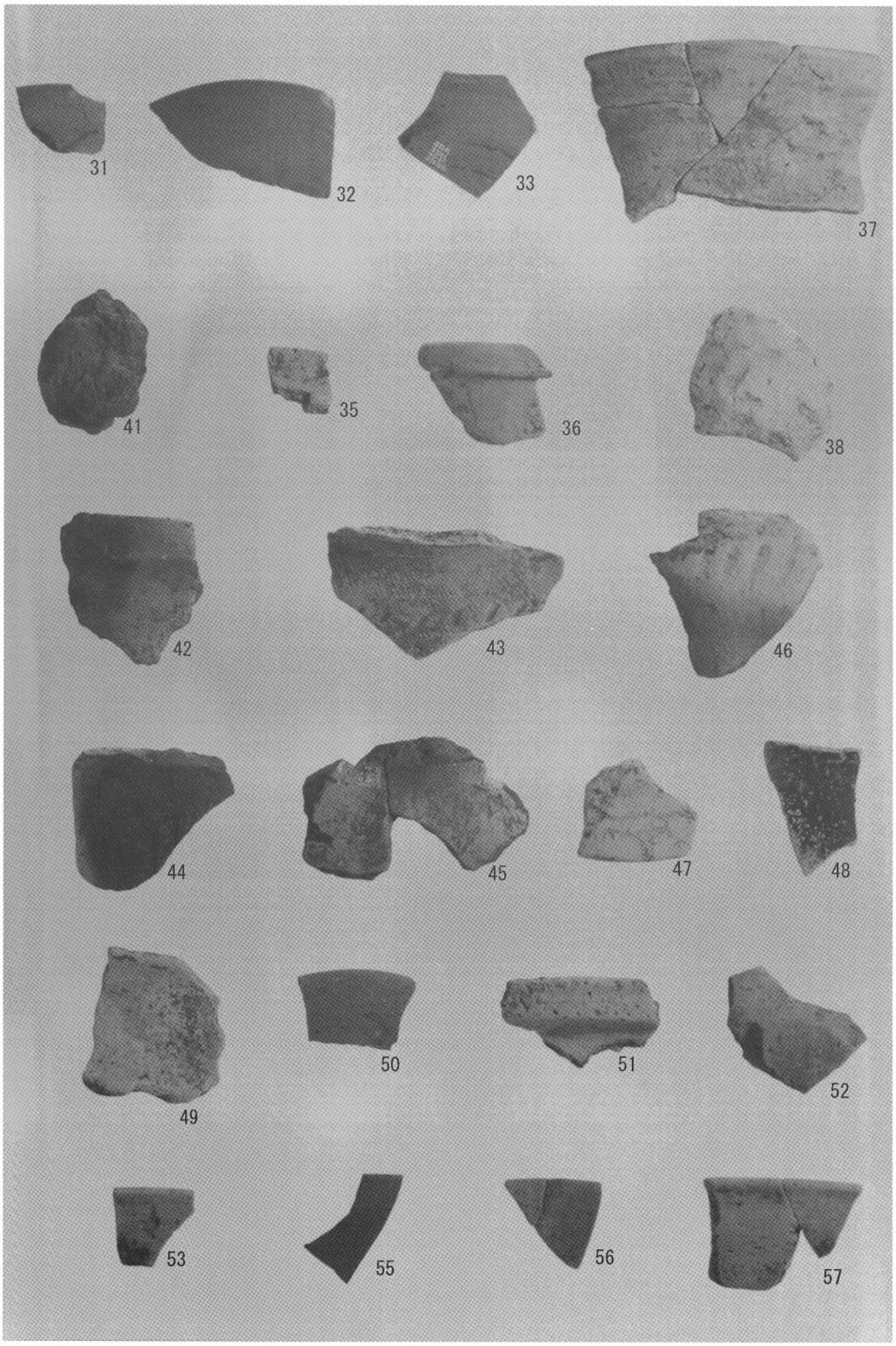
SK04 遺物出土状況（南西から）



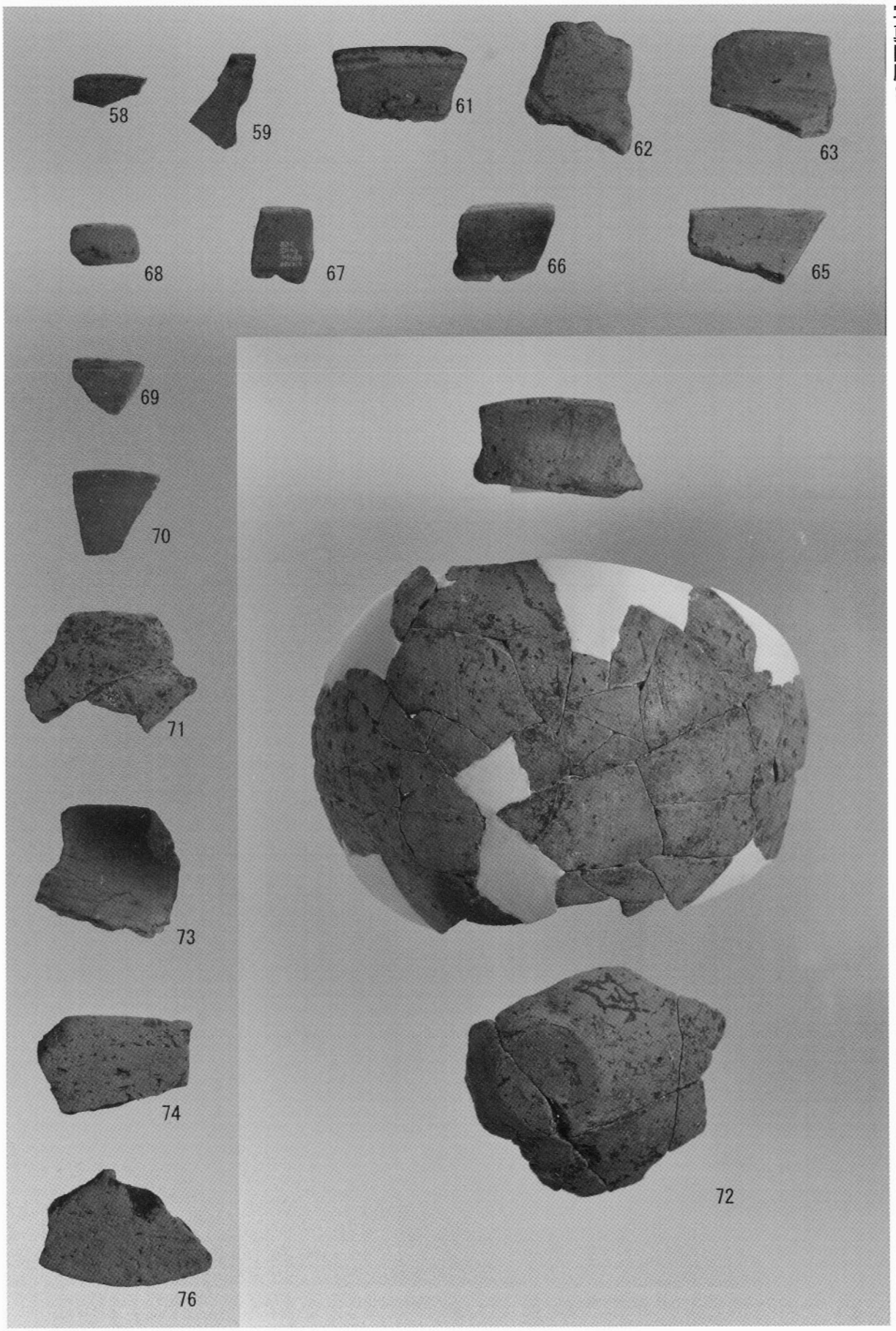
調査区南壁（北から）


1
2
3
4
5
9
10
13
8
9
10
11
12
15
17
18
19
16
20
21
22
23
25
27
39
40
26
29
28

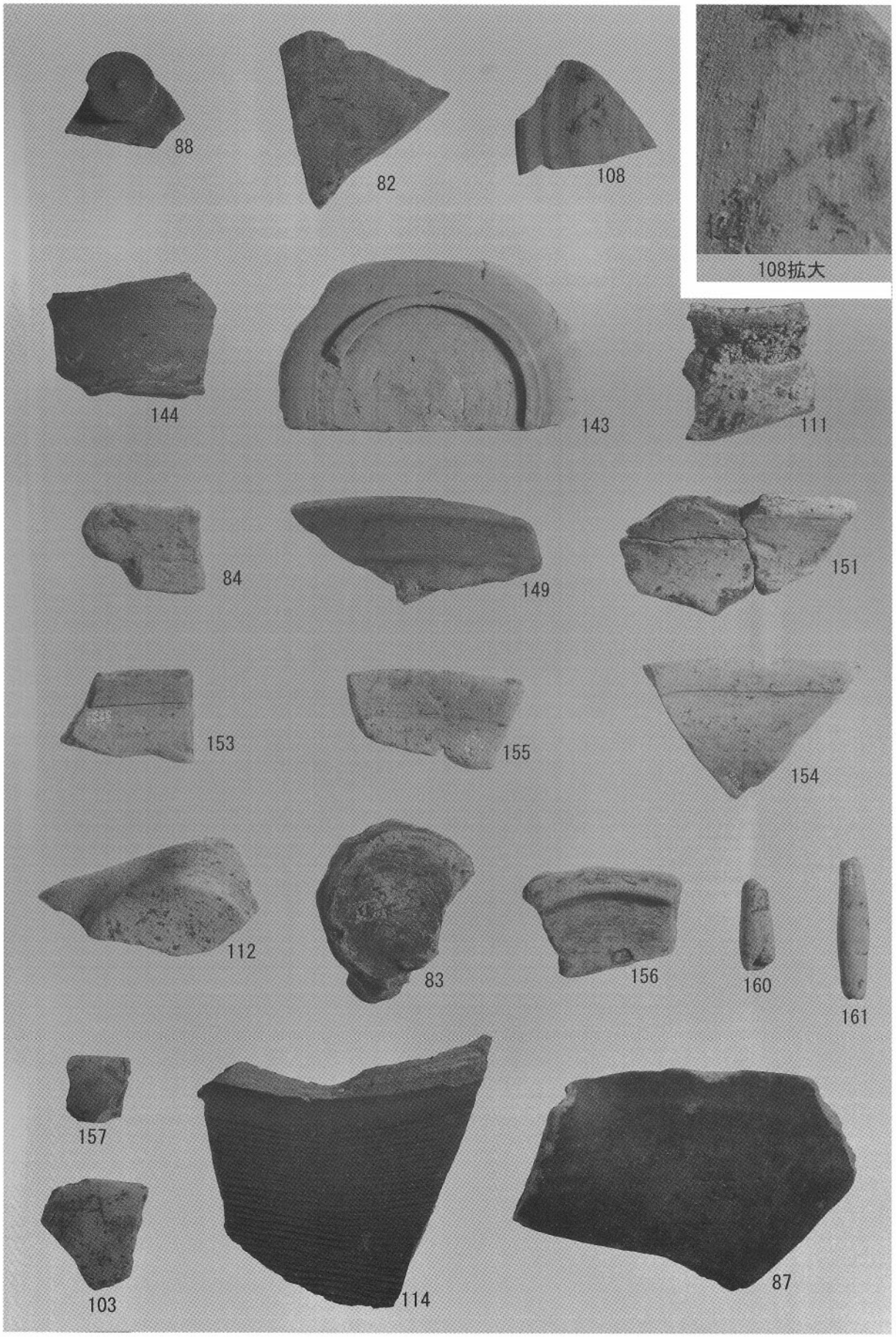
出土遺物（1）



出土遺物（２）



出土遺物（3）


88
82
108
108拡大
144
143
111
84
149
151
153
155
154
112
83
156
160
161
157
103
114
87

出土遺物（4）

報 告 書 抄 録

ふりがな	とやましないいせきはっくつちょうさがいよう　じゅうよん
書名	富山市内遺跡発掘調査概要XIV
副書名	砂川カタダ遺跡
シリーズ名	富山市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	72
編著者名	堀内大介
編集機関	富山市教育委員会　埋蔵文化財センター
編集機関所在地	〒930-0091　富山市愛宕町1丁目2-24　TEL. 076-442-4246
発行年月日	西暦　2015年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
砂川カタダ遺跡（すながわ）	富山市東老田地内（ひがしおいだ）	16201	2010098	36度42分13秒	137度08分19秒	20060226～20060323	180	個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
砂川カタダ遺跡	集落	弥生時代	竪穴建物、平地式建物、土坑、溝、ピット	弥生土器、管玉未製品	猫橋式期（弥生時代後期前半）の集落
		平安時代	掘立柱建物、土坑、溝、ピット	須恵器、土師器、土錘、鉄滓	古代婦負郡の生産集落の一つか
		鎌倉時代	ピット	中世土師器、珠洲	集落の縁辺部か
		江戸時代		越中瀬戸	

要約

本遺跡は新堀川支流鍛冶川右岸の河岸段丘に形成された弥生時代後期～鎌倉時代の集落跡である。

弥生時代後期前半の猫橋式期の竪穴建物、平地式建物などを検出した。出土土器は富山県における当該期の土器編年を補完するものと言える。下条川中流域に広がる弥生時代の遺跡群は、下条川の東を流れる本遺跡を含む新堀川流域まで広がるものと考える。

平安時代の掘立柱建物、土師器焼成遺構の可能性がある土坑などを検出し、本遺跡が呉羽丘陵から射水丘陵にかけて広がる一大手工業生産地帯の生産集落の一つである可能性がある。

鎌倉時代末の集落の縁辺部と考える。

富山市埋蔵文化財調査報告72

富山市内遺跡発掘調査概要XIV

－砂川カタダ遺跡－

発行日：2015（平成27）年3月31日
発　行：富山市教育委員会
編　集：富山市教育委員会埋蔵文化財センター
〒930－0091
富山市愛宕町1丁目2番24号
ＴＥＬ：076－442－4246
ＦＡＸ：076－442－5810
Ｅmail：maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp
印　刷：中央印刷株式会社